

平成 29 年度香美市教育委員会
施策に関する点検・評価報告書

平成30年11月20日

香美市教育委員会

点検及び評価の概要

平成20年4月1日に施行された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正に於いて、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないこととされました。

この改正は、効果的な教育行政を推進し、住民の皆様への説明責任を果たしていくことを目的としたものであり、具体的には、教育委員会で、自ら設定した教育に関する基本的な方針や地域の課題等に応じて、教育行政がどのように執行されているのかを点検・評価することになります。

香美市教育委員会は、平成29年度の教育行政方針を基に、「心豊かな人づくり、人権尊重を核としたまちづくり」を推進しています。市民一人一人が、国際化、情報化、高齢化等の社会の変化に対応し得る能力を身につけ、心身ともに健康で調和のとれた人間形成を自ら成し遂げ、自己実現が図れるように、生涯学習の推進体制や環境を整備し、「学びをたのしむ人々が育つ風土づくり」に努めてきました。

このたび、平成29年度の取り組みに対し、自己点検・評価を行うとともに、評価内容の客観性を確保するため、学識経験を有する点検・評価委員から、今後の教育行政の推進についての意見・提言を受けました。これらを「平成29年度香美市教育委員会施策に関する点検・評価報告書」として公表いたします。

教育委員会の点検・評価制度の実施により、教育委員会自らがその成果や課題を確認することで、今後の施策改善に反映させるとともに、目指すべき方向についてより具体的なそして効果的な教育行政の推進を図ることとします。

点検及び評価の構成

平成20年4月1日に施行された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正により、市教育委員会では、効果的な教育行政を推進し、市民への説明責任を果たすことができるよう市教育委員会が行う事務の管理・執行状況について点検・評価を実施し、その結果をとりまとめました。

(評価の判断基準)

評 価	判 断 基 準
5	想定を大きく上回る成果が得られた。
4	想定以上に成果が得られた。
3	想定どおりの成果が得られた。
2	成果が得られたが、改善の必要がある。
1	成果が得られず、見直しの必要がある。

外部からいただいたご意見

点検・評価の客観性を確保するために、学識経験を有する外部の方を点検・評価委員として、ご意見、ご助言をいただきます。

氏 名	所 属
福石 賢一	高知工科大学 教職課程准教授

結果の公表

- (1)点検・評価の結果については、議会へ提出します。
- (2)市民には、ホームページにより公開します。

H29年度 外部評価

地教行法改正に伴い平成20年度より開始された香美市における教育委員会の諸活動に対する評価報告は今回で10回目の節目を迎えることとなった。これまでの10回の評価報告のうち本年度の外部評価者による評価は今回で3回目となる。本年度の評価は昨年同様、市教育委員会から頂戴した各種資料の検証、並びに同委員会事務局における各取組・事業の担当者に対する聞き取り調査により評価を行った。これまで同様、資料の作成や聞き取り調査への対応に多くの時間と労力を割いていただいたことに対しこの場を借りて関係各位に謝意を申し上げたい。

本外部評価では香美市の教育振興基本計画に基づいて策定された62の取組・事業を主たる対象として評価を行った。市教育委員会は、市の教育振興基本計画に基づき、その基本理念である「郷土を愛し、未来を拓く人づくり」の下、「1.主体的に学び、社会を生き抜く力をもった人材を育てます」、「2.市民が協働し、ともに支え合い、高め合う地域社会を築きます」、「3.夢を育み、新たな価値を創造する教育を展開します」の3つの視点から事業を計画、実施している。具体的には、視点1については学力向上、幼小連携、いじめ・不登校対策、教員・管理職研修等に関する26事業、視点2については地域での体験活動、食育、子育て支援、地域連携等に関する21事業、視点3についてはICT機器整備、環境教育、高知工科大との連携、生涯学習等に関する15事業が配されている。

これらの取組・事業については各取組・事業毎に、まず市教育委員会が内部評価を行いそれぞれに1～5の評価点を付すこととなっている。今年度における評価基準は以下の通りである：5点＝想定を大きく上回る状況、4点＝想定以上の状況、3点＝想定どおりの成果、2点＝改善が必要、1点＝見直しが必要。この基準に基づく今年度の評価点の分布は5点が0事業（昨年度1事業。以下同様）、4点が22事業（20事業）、3点が38事業（35事業）、2点が2事業（6事業）、1点が0事業（0事業）であった。62事業中60事業（56事業）、割合にして97%（90%）の取組・事業に3点または4点の評価点が与えられている（平均点3.4点（3.3点））。各種資料並びに聞き取り調査をふまえて外部評価者が行った評価においても60の取組・事業が3点以上であると判断した（平均点3.2点）。以上から、香美市の教育振興基本計画に基づく教育委員会の取組・事業はおおむね計画通りに実施され、かつそのことによって一定の成果を上げてきていると判断する。

上記の62の取組・事業名の下で実施されている具体的な施策としては、例えば教師の指導力向上を目指す各種研修会の実施、小1プロブレムの解消を目指すスタートカリキュラムの作成、特別支援教育に関わる養護学校（県立）との連携、ICT機器や学校図書システム等の環境整備、子育て中の親を対象とした子育てひろばの実施や一般市民向けの市民大学講座の開講等がある。こうした事業のうち、わけても小中学校におけるコミュニティ・スクール化の推進や地域学校協働本部を通じた地域人材の学校教育活動への参加といった学校と地域の連携・協働、龍河洞プログラムやキャリアチャレンジデイ（高知工科大学にて開催）など地域の教育資源を活かした教育活動は注目に値するもので、これらの取組・事業の成果は学校の教育活動に参加した地域住民数がのべ4,400人以上に及ぶこと、「自分の住んでいるところが好きだ」と思っている児童・生徒の割合が小6で89.7%、中3で78.1%（平成26年調査では小中合わせて56.1%）に上ること、高知工科大への市内からの進学者が平成25年に比べ4倍に増加したこと等のデータに現れていると考える。

しかしながらいっぼうで、昨年度も言及させていただいたことだが、このような積極的な取り組みにも関わらず、残念ながら本市も我が国の学校教育全般に共通する課題を払拭するには至っていない。例えば、小中学校における暴力行為発生件数は昨年度に比べ減少したものの、中学校における長期欠席者数や小中学校におけるいじめ認知件数は一昨年度から昨年度にかけて増加し今年度も高止まりの状況にある（但し、いじめ解消率は昨年度の83%から今年度は100%となった）。学力に関しても、全国学力・学習状況調査においてH27年度からの3年間で一定の改善が見られるものの、中学校の数学においてはまだ全国平均との間に差が見られる。またこれらのこと背景にあると考えられる子どもたちの生活面における課題についても、例えば家庭で平日2時間以上学習する中学生の割合28.2%

(目標80%)、スマホなどの使い方について家の人との約束を守っている小中学生の割合41.8%(目標79%)など、平成30年度末目標値との差が大きく根本的な対応が望まれるものが見受けられる。毎日朝ご飯を食べている児童生徒の割合については8割前後(目標95%)を達成しているが、小中ともに昨年度に比べその割合が微減しており今後の推移を見守っていく必要がある。このほか特別支援保育コーディネーターの配置(目標2名に対し1名)やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、家庭教育支援員の配置(特別な教育的支援の必要な子ども10人に1人の目標に対し同14人に1人)等、教育の条件整備に係る課題についても目標達成のため委員会としての努力が求められる。

また取組・事業の評価方法そのものに関し、一昨年度の外部評価においてPDCAサイクルを意識した評価、中長期の目標を意識した評価が必要である旨の意見を述べさせていただいた。すなわち、目指すべき「到達目標」、「到達目標」を達成する手段としての「具体的な取組・事業」、その取組・事業を実施した結果もたらされた到達目標の達成度についての「評価」、その評価をふまえた改善策を盛り込んだ翌年度の「取組・事業計画」、これらの間の関係性を意識した評価がそれである。この指摘に対し市教育委員会においてご対応いただき、昨年度より評価表が刷新された。さらに今年度、評価の基準が「平成30年度達成目標」の達成状況を明確に意識したものに变更されたことで、よりいっそう上記の趣旨に沿った評価が目指されることになった。この結果、評価点の年度毎の推移の持つ意味が薄れることにはなったが、少なくとも今年度のみに着目すれば、先に見た通り、62事業中60事業で評価点3(想定通りの成果)ないし4(想定以上の状況)の評価がなされており、繰り返しになるが、香美市の教育振興基本計画に基づく教育委員会の取組・事業はおおむね当初の計画通りに実施され、かつそのことによって一定の成果を上げてきていると考えられる。また、昨年度の外部評価において、「現状」とかけ離れた「平成30年度達成目標」が設定されている取組・事業があることを指摘させていただいたが、この点についても点検のうえ必要に応じ目指すことが可能な目標を再設定していただいた。これらのことを通じて内部評価にしる外部評価にしる評価の根拠が明確になり評価の論理がわかりやすくなったと考える。しかしながら、いざ各取組・事業に評価点をつけようとすると、実際にはそれでも評価の仕方についてかなりの迷いが生じた。各取組・事業の成果は最終的には「到達目標」の達成となって現れることが期待される。しかし実際には、「取組・事業」と「到達目標」の因果関係が曖昧だったり「取組・事業」の成果が現れるまでに時間がかかるものがあったりすることを考えると、「到達目標」は達成されていないが予定していた施策は確実に実行されている「取組・事業」についてどのように評価すべきか大いに迷った。結局本年度の外部評価については、到達目標の達成状況と取組・事業の実施状況の両方を参酌しながら評価点を決めることとした。望むらくはひとまず「計画された取組・事業が確実に実施されたこと」と「到達目標の達成度」を分けて点検・評価を行い、もしある取組・事業が計画通りに実施されたにも関わらずその取組・事業に関わる目標が達成されなかった場合には、その目標と手段の関係が適切であるか否か改めて検討することである。来年度は平成30年度までの5年間の取組・事業の総括と、それをふまえた平成31年度からの新たな5年間の取組・事業計画の策定が控えている。その際には是非この点について考慮いただきたい。

なお最後に、備忘録的ではあるが、過去数年に渡って指摘されてきた年齢・経験年数を考慮した各学校への教職員配置の問題が次期の取組・事業計画の議論の俎上に載せられることが期待される。

<視点>

主体的に学び、社会を生き抜く力をもった人材を育てます

(1) きめ細やかな教育・保育の推進と体制整備

取組・事業名	内部評価	外部評価
香美市0歳から15歳までの「子どもの育ちの指標」を明らかにし、発達段階に応じた適切な教育の推進	3	3
保小連携・小小連携・小中連携教育	3	3
アプローチカリキュラム作成・実施	3	2
スタートカリキュラム実施(小学校)	4	3
インクルーシブ教育の推進 ①支援体制の確立	3	3
インクルーシブ教育の推進 ②高知県立山田養護学校との連携	4	4
インクルーシブ教育の推進 ③関係各機関と連携した研修と支援	4	4
インクルーシブ教育の推進 ④不登校対策	2	2
インクルーシブ教育の推進 ⑤いじめ対策・問題行動対策	3	3

(2) 活力ある保育所・学校づくりの推進

取組・事業名	内部評価	外部評価
学校組織として教育活動を推進	4	4
教職員に対する研修の充実	4	4
管理職研修の充実	4	4
中堅教員研修の充実	3	3
小中連携教育の推進	2	3
教育研究所による学校支援の充実	3	3
保育職員の研修	4	4
香美市子ども・子育て支援事業計画の実施	4	3

(3) たくましく生きる人間力を培う教育の推進

取組・事業名	内部評価	外部評価
学力向上プロジェクト事業	3	3
中学校学力向上推進	3	3
香美市チャレンジ塾	3	3
道徳教育の推進	4	4
人権教育の推進	3	3
図書館教育の推進	3	3
体力の向上	3	3
健康な生活の推進	3	3
キャリア教育の推進	3	3

<視点>

市民が協働し、ともに支え合い、高め合う地域社会を築きます

(1) 香美市のたからを活かしたふるさと教育の推進

取組・事業名	内部評価	外部評価
香美市社会科副読本活用推進 (支援員配置) (社会教育施設の活用)	3	3
香美市ふるさとプログラムの実施	3	3
香美市の森の学習 (山の学習)	3	3
香美市小中学校子ども会議子ども議会(毎年実施)	4	4
食育の推進香美市食育推進計画	4	3
香美市防災教育の推進	3	3

(2) 子育て支援と親支援の推進

取組・事業名	内部評価	外部評価
香美市教育の日 地域の人々を学校へ	4	4
子育て専門家支援家庭支援推進事業	4	3
子育てひろば	3	3
子育てに関する 相談・援助	4	4
地域の子育て関連情報提供	3	3
子育てに関する講習会	3	3
子育てサークル支援	4	3
一時預かり	4	4
マタニティママのつどい	3	3
子育てサポート体験	4	3

(3) 市民協働で地域の教育力を高める取組の推進

取組・事業名	内部評価	外部評価
学校支援地域本部事業	4	4
放課後子ども教室推進事業	4	4
コミュニティ・スクール事業	4	4
放課後児童クラブの充実	3	3
学校評価の推進	3	3

<視点>

夢を育み、新たな価値を創造する教育を展開します

(1) 次世代を見通した教育の環境整備と実践

取組・事業名	内部評価	外部評価
ICT機器整備	3	3
情報モラル教育の推進	3	3
情報リテラシー教育の推進	3	3
環境教育 エネルギー教育の推進	3	3
学校図書館システム化の推進	4	3
外国語(英語)教育の推進	3	3

(2) 高知工科大学との連携

取組・事業名	内部評価	外部評価
高知工科大学について知る学習の推進 オープンキャンパス事業	4	4
高知工科大学留学生との交流 ディキャンプ開催	3	3
高知工科大学学生企画による小中学校学習支援活動	3	3
高知工科大学の施設や「知」を活用した連携活動の推進 教職員情報リテラシー研修の推進 例: 情報教育担当教員との連携	3	3

(3) 生涯を通じた豊かな学びと文化・芸術、スポーツ活動の充実

取組・事業名	内部評価	外部評価
芸術・文化活動の拠点となる市内社会教育施設の活用促進	公民館 3 美術館 3	3
民俗芸能や伝統行事を後世に残す取組の推進	3	3
生涯スポーツの推進	3	4
公民館活動の活性化	3	3
図書館活動の充実	3	3

<視点>

主体的に学び、社会を生き抜く力をもった人材を育てます
 (1) きめ細やかな教育・保育の推進と体制整備

行動実績の欄(平成30年度末の達成目標の到達評価)

A:すでに達成している B:予定通り30年度末に達成する C:達成の見込みなし

5:想定を大きく上回る状況 4:想定以上の状況 3:想定どおりの成果
 2:改善が必要 1:見直しが必要

		平成29年度												
取組・事業名	事業の概要	年度当初の現状 (課題等)	具体的な到達目標 (有るべき姿・望ましい状況)	具体的な取り組み (計画・実施)	行動実績	到達目標の達成状況	内部 評価	外部 評価	H26	H27	H28	H29	H30	平成30年度末 達成目標
1	香美市0歳から15歳までの「子どもの育ちの指標」を明らかにし、発達段階に応じた適切な教育の推進	めざす子ども像の明確化と目標の共有 ・子どもの「育ちの指標」の作成 ・「育ちの指標」による保育・教育の実施 ・保・小・中・高合同の研修会の実施	・「育ちの指標」を活用した授業研究が実施されている。 ・小中学生を対象にキャリアアンケートを実施している。 ・「自分にはよいところがある」については、小学校は74.9%、中学校は、72.2%	・キャリアアンケート(15項目)で、すべての項目が75%以上 ・自尊感情について、小学校は昨年74.4%より5(P)上げる。中学校は、昨年度72.2%と同等または(+2P)	①校内研究や公開授業等で、「育ちの指標」を意識した授業を実施する。(特に生活科・総合的な学習の時間) ②教師が授業や学習活動の中で、子どもたちの考えを深めたり、広げたりできるような場面を作る。	○全小中学校で、キャリア教育の視点を入れた授業を実施。 ○鏡野中学校区総合的な学習の時間一覧表の作成 ○大橋保・小中学校のパワーアップアクションプラン・生活リズム計画の作成	〔達成評価〕 B ○アンケートのほとんどの項目で80%を超えている。 ○自尊感情については、小学生が77.3%、(昨年よりも+2.9P)中学生が69.2%(昨年度よりも-3.0P)という結果。	3	3	①	②	①子どもの「育ちの指標」の作成 ②「育ちの指標」による保育・教育の実施 ・保・小・中・高合同の研修会の実施	・キャリアアンケート(15項目)で、すべての項目が80%以上 ・自尊感情について、小学生80%以上(全国76.3)、中学生は、70%以上(全国69.3)	
2	保小連携・小小連携・小中連携教育	校種間連携、交流教育の推進 ・連携、交流教育の香美市の計画作成 ・目的を明確にした連携、交流学習の推進 ・保育所・小学校・中学校の連携推進	・保小の幼児と児童の交流はすべての小学校で実施。 ・小・中は、すべての中学校区で教職員連絡会を実施。 ・各小学校区・中学校区で、年度末の引継ぎ会(支援の必要な幼児や児童を中心)実施。	・各小学校区で、互恵性のある保幼小交流活動の実施。 ・各中学校区で、児童生徒の育ちが連続したものになるような一覧表の作成 ・小学1年生・中学1年生の「学校に行きたくないようなことがありますか」否定的回答75%以上	①保幼小連携研修の実施(年間3回) ②保幼小の交流についての話し合いを実施(事前・事後) ③山田小・鏡野中の探究の指定を活用した小中連絡会の実施(年間3回以上)	○9月に全小学校3年生(約180人)を対象に龍河洞プログラムを実施。 ○保幼小連携研修を年間2回実施 ○全小学校区で、保幼小交流活動の実施。 ○外国語を通して、小小連携を実施。 ○中学校区の連絡会の実施 ○支援の必要な幼児・児童・生徒の把握(シートによる引き継ぎ対象者33名) ○全保育小中学校で引き継ぎ会を実施。	〔達成評価〕 B ○各小学校区で、保育・幼稚園との交流が年間数回実施されている。	3	3	①	②	校種間連携、交流教育の推進 ・連携、交流教育の香美市の計画作成 ・目的を明確にした連携、交流学習の推進 ・保育所・小学校・中学校の連携推進	・各小学校区で、交流の年間計画を位置付ける。 ・中学校区で、「育てたい子どもの姿」を作成。 ・小学1年生・中1年生の「学校に行きたくないようなことがありますか」否定的回答85%以上	
3	アプローチカリキュラム作成・実施	児童生徒の円滑な教育の接続 ・保育・小学校でのアプローチカリキュラムの作成と、実施 ・保育所から小学校への接続を円滑にするために、園児と小学生、職員間等で交流をもち、ギャップを埋めるための就学前のカリキュラムを作成する。	・保育所のアプローチカリキュラムは市で作成されているが、園のカリキュラムは作成・実施されていない。 ・中学校に向けての連絡会は実施しているが、具体的な取り組みまで至っていない	①保育士・小学校教員が保幼小連携の研修に参加。 ②保育・幼稚園・小学校が協議できる場の設定(年3回以上)③小中連絡会を年間3回以上実施。	○4月中旬に、スタートカリキュラムの授業参観・研修の実施(保幼小の保育士・教職員約35名参加) ○夏期休業中に、小学校の教員が保育園や幼稚園に保育体験。(約30名・平日～1日) ○各小学校で、年長児との交流会を実施。	〔達成評価〕 B ○全小学校で、年長児との交流活動や教職員の保育職場体験は実施されているが、アプローチカリキュラム作成までは至っていない。 ○鏡野中学校区で、中学校を意識した交流が実施されている。	3	2	①	②	児童生徒の円滑な教育の接続 ・保育、小学校でアプローチカリキュラムの ①作成と ②実施	・全保育所で、小学校へ接続のためのアプローチカリキュラムの作成・実施(60%) ・中学校を意識した小学校区(横のつながり)の共通した取り組みの実施(100%)		
4	スタートカリキュラム実施(小学校)	児童生徒の円滑な教育の接続 ・小学校でのスタートカリキュラムの作成と、実施	・香長小学校、舟入小学校でのスタートカリキュラムの作成・実施。	①小学校教員が保幼小連携の研修に参加。 ②作成したカリキュラムを使った研修の実施。	○4月中旬に、スタートカリキュラムの授業参観・研修の実施(保幼小の保育士・教職員約35名参加) ○全小学校で、スタートカリキュラムの作成	〔達成評価〕 A ○全小学校で今年度の実施記録を基にして、来年度のスタートカリキュラムを作成した。	4	3	①	②	・校種間連携、交流教育の推進 ①保育(小学校入学に向けて) ②小学校でアプローチカリキュラムの作成と実施	・小学校でスタートカリキュラムの作成・実施(85%以上)		
5	インクルーシブ教育の推進 ①支援体制の確立	園内・校内支援体制の確立と推進 ・全ての子どもが「わかる・できる」授業の実施 ・高知県版引継ぎシートの活用	・特別な教育的支援が必要な児童生徒のうち、特別支援学級100%、通常学級の個別指導計画作成88%	・特別な教育的支援が必要な児童生徒の個別指導計画作成100%	①学校訪問による点検・指導・助言 ②12月末の県実態調査にて検証	○特別支援学級在籍児童生徒個別の指導計画作成率100%。 ○特別支援学級在籍以外の要支援児童生徒への個別の指導計画作成率92.6%。	〔達成評価〕 B ○特別支援学級在籍以外の要支援児童生徒への個別の指導計画作成率平成28年度88%から、平成29年度92.6%に上昇。	3	3	①	②	①園内・校内支援体制の確立と推進 ②全ての子どもが「わかる・できる」授業の実施・高知県版引継ぎシートの活用	・特別な教育的支援が必要な児童生徒の個別の指導計画作成100%	

<視点>

主体的に学び、社会を生き抜く力をもった人材を育てます
 (1) きめ細やかな教育・保育の推進と体制整備

行動実績の欄(平成30年度末の達成目標の到達評価)

A:すでに達成している B:予定通り30年度末に達成する C:達成の見込みなし

5:想定を大きく上回る状況 4:想定以上の状況 3:想定どりの成果
 2:改善が必要 1:見直しが必要

取組・事業名	事業の概要	平成29年度						H26	H27	H28	H29	H30	平成30年度末 達成目標
		年度当初の現状 (課題等)	具体的な到達目標 (有るべき姿・望ましい状況)	具体的な取り組み (計画・実施)	行動実績	到達目標の達成状況	内部 評価						
6 インクルーシブ教育の推進 ②高知県立山田養護学校との連携	・県立山田養護学校との連携教育の確立と推進	・全小・中学校は特別な教育的支援についての研修や教育活動等で連携できている。 ・保育所は、保育コーディネーターを通じて連携できている。	・全小・中学校は特別な教育的支援についての研修や教育活動等で連携できている。 ・保育所は、保育コーディネーターを通じて連携できている。	①特別支援教育学校コーディネーター合同研修を継続。巡回相談事業、実践交流事業、教育相談事業を通じて連携する。	○保・幼・小・中・高・特別支援学校コーディネーター合同研修(1回)実施。 ○新担任研修(1回)実施。 ○巡回相談事業(5回)実施。 ○実践交流事業(5回)実施。 ○教育相談(63名)実施。	[達成評価] A ○保・幼・小・中・高・特別支援学校コーディネーター合同研修肯定的評価100%。 ○就学に関して、情報共有・意思疎通ができた。	4	4				・全保育所、全小・中学校が特別な教育的支援についての研修や教育活動等で連携できた(100%以上)	
7 インクルーシブ教育の推進 ③関係各機関と連携した研修と支援	・香美市特別支援教育研修の実施 ・児童虐待に関する研修の充実 ・専門家による教職員支援 ・家庭支援員による家庭教育支援	・保育所に家庭教育支援員(専任)を配置している。(物部地区、香北地区、なかよし保育所、あけぼの保育所に各1名) ・特別な教育的支援が必要な子どもへの適切な対応ができる教職員の増加により、子どもの発達が保障されてきた。	・家庭教育支援員(専任)の継続配置。 ・支援会議での具体的な手立てが提案できる。	①家庭教育支援員(専任)の継続配置。 ②発達障害指導者実践講座に2名以上の受講者を派遣。	○特別な教育的支援が必要な子どもへの適切な対応ができる教職員が増加。 ○発達障害等指導者実践講座新コースを3校4名修了。 ○高知大学大学院発達障害教育演習(むすびネット)11回開講。(参加者:のべ177名)	[達成評価] A ○家庭教育支援員の配置や専門家による研修を受講することで、特別な教育的支援が必要な子どもに適切な支援ができる教職員が増え、支援会議で具体的な手立てが提案できている。	4	4				・保育所に家庭教育支援員(専任)を配置している。(物部地区、香北地区、なかよし保育所、あけぼの保育所に各1名) ・特別な教育的支援が必要な子どもへの適切な対応ができる教職員の増加により子どもの発達が保障される。(支援会議での具体的な手立てが提案できる。)	
8 インクルーシブ教育の推進 ④不登校対策	子どもの学びを保障する取組 ・相談体制の充実 ・SSWの配置による児童生徒、家庭支援 ・香美市教育支援センターの充実 ・SCの配置による児童生徒、家庭支援	・小中学校とも不登校出現率(小0.77%、中6.44%)が全国平均値を上回っている。 ・SC、SSWの配置が、特別な教育的支援が必要な子ども、家庭16人に対し1人となっている。	・不登校出現率が小0.75%、中4.25%を下回る。※(H27年度は中学校が4.34%だったため。)	①教育相談講座に教職員を派遣する。 ②全小中学校にSCを配置。SSWは3人体制を継続。教育支援センターにアウトリーチ型SCを配置。	○教育相談講座への教職員の派遣2名。 ○教育支援センターにアウトリーチ型SCを配置。 ○SCSSW、家庭教育支援員を支援が必要な子ども、家庭に対して14人にひとりの配置。	[達成評価] C ○平成29年度香美市不登校出現率(小0.8% 中7.39%)が、全国平均を上回っている。	2	2				・小中学校とも出現率が全国平均値以下となる ・SC、SSWの配置が特別な教育的支援が必要な子ども、家庭10人に対し1人となっている	
9 インクルーシブ教育の推進 ⑤いじめ対策・問題行動対策	子ども、保護者の心に寄り添った取組 ・教育相談の充実 ・SC、SSWの配置によるきめ細かく継続的な児童生徒支援、およびその家庭支援 ・香美市教育支援センターの充実 ・Q-U検査活用による児童生徒の心の把握	・いじめを認知するアンテナが高くなり、いじめ件数が増加。 ・いじめ解決率83%	・いじめ解決率100% ・「いじめはどんなことがあってもいけない」100%	①いじめアンケートの実施と対応。 ②Q-U検査の実施と分析により、子どもの実態把握を行い、適切な支援を行う。	○各校年間2回以上いじめアンケートの実施と対応。 ○Q-U年間2回実施。 ○Q-U開発者の講話(100名参加)実施。	[達成評価] B ○小中学校12月まで累計いじめ認知件数(H28年度47件→H29年度53件) ○平成29年度高知県児童生徒指導上の諸課題・児童生徒虐待に関する調査で、いじめ解消率100%。 ○「いじめはどんなことがあってもいけない」(全国学力学習状況調査質問紙肯定回答:小学校97.2%(+1.1)全国比・中学校92.6%(+0.2)全国比)	3	3				・いじめ解決100% ・「いじめはどんなことがあってもいけない」100%	

<視点>

主体的に学び、社会を生き抜く力をもった人材を育てます
 (2) 活力ある保育所・学校づくりの推進

行動実績の欄(平成30年度末の達成目標の到達評価)

A:すでに達成している B:予定通り30年度末に達成する C:達成の見込みなし

5:想定を大きく上回る状況 4:想定以上の状況 3:想定どおりの成果
 2:改善が必要 1:見直しが必要

取組・事業名	事業の概要	平成29年度					内部評価	外部評価	平成30年度					
		年度当初の現状(課題等)	具体的な到達目標(有るべき姿・望ましい状況)	具体的な取り組み(計画・実施)	行動実績	到達目標の達成状況			H26	H27	H28	H29	H30	達成目標
1 学校組織として教育活動を推進	・組織的に取り組む学校経営の推進 ・学力向上を核にした学校経営の実施 ・学力向上に向け、確実なPDC Aサイクル化した教育実践 ・先進地の学校経営について学ぶ視察研修 ・高知工科大学・県立山田高等学校・県立山田養護学校と連携して進める学校経営 ・コラボレーション会議との連携による事業 ・学校関係者評価の実施	・学校関係者評価の「知」に対する評価は、すべての学校がA以上である。 ・学校経営計画での評価でB以上でない学校は1校である。 ・学校経営計画が全ての教職員で作成・共有されている。(学校訪問による聞き取り100%) ・各校の児童生徒・保護者に対する学校評価アンケートで「授業が分かりやすい」(80%以上)に達していない学校が1校) ・「校区内の各校種で教育目標を共有する取組を連携した教育が行われている。」(全国学調・100%)	・学校関係者評価の「知」に対する評価は、すべての学校がA以上、学校経営計画ですべての学校がB以上。 ・各校の児童生徒・保護者に対する学校評価アンケートで「授業が分かりやすい」(85%以上)	①学校経営計画を全教職員が意識して取り組む学校づくりの支援(教育事務所の指導) ②学校関係者評価委員との連絡や広報の支援 ③コラボレーション会議と事業の実施 ④子ども会議(祭り)・コラボレーション会議 ⑤子どもの育ち長期調査 ⑥英語クラブ・理科クラブ 等	・学力向上にむけ、確実なPDC Aサイクル化した教育実践を図るため、年2回東部教育事務所アドバイザーとともにすべての学校を訪問し、学校経営計画の作成・進捗確認・指導を行っている。 ・学校関係者評価について、計画に沿った実施を行った。 ・コラボ会議を毎月実施し、各事業の進捗管理を行った。 ・先進地の学校経営について学ぶため、コミュニティスクールの県外視察の実施(神奈川県横浜市東山田中学校) ・高知工科大学・高知県立山田高等学校・高知県立山田養護学校と連携した探求の研究(コラボ会議の実施)	〔達成評価〕 A ・経営計画をもとにチームとして取り組む姿が、訪問によって確認できている。 ・学校経営計画は、教職員によって作成・共有できている。 ・コラボ会議では、各事業の計画や成果の報告を行うとともに、新たな事業(プレゼンフェア、理科クラブ、外国語等)の確かな活動の報告がされている。 ・各校の児童生徒・保護者に対する学校評価アンケートで「授業が分かりやすい」(83%)、校区内の各校種で教育目標を共有する取組を連携した教育が行われている。」(全国学調・100%)	4	4	 <p>組織的に取り組む学校経営推進 ・学力向上を核にした学校経営の実施 ・学力向上にむけ、確実なPDC Aサイクル化した教育実践 ・大学教授、東部教育事務所等による研修 ・先進地の学校経営について学ぶ視察研修 高知工科大学・高知県立山田高等学校・高知県立山田養護学校と連携して進める学校経営 ・コラボレーションの会と連携による事業 学校関係者評価の実施 ・学校関係者評価</p>					・「知」に対する評価で、学校経営計画「B以上」と学校関係者評価「A以上」にすべての学校がなる。 ・学校経営計画が全ての教職員で作成・共有されている。(100%) ・香美市は「教育に力を入れているまち」という意識(市民・80%)、各校の児童生徒・保護者に対する学校評価アンケートで「授業が分かりやすい」(85%以上)、「校区内の各校種で教育目標を共有する取組を連携した教育が行われている。」(全国学調・99%)
2 教職員に対する研修の充実	香美市教職員総会・研究会(4月) 香美市教職員研修会(8月) 香美市保小中合同研修会(8月) 香美市教育研究会(年5回)	・8月の2回の研修後のアンケート結果 「実践に生かせる」96% 全体研修3回で、香美市の教育の方向性や課題を共有している。 また、香美市教育研究会や各種研修会を通して、研修の充実を図っている。	・8月の2回の研修会後のアンケートで、「実践に生かせる」が95%以上保持	①香美市教職員総会・教育研究会(4月) ②香美市教職員研修会(8月) ③香美市保小中合同研修会(8月) ④香美市教育研究会(年5回) ⑤各種発表会(香美市内学校) ⑥各種研修会(香美市内教職員対象)の実施と内容の充実	〔達成評価〕 A 香美市の教育施策の軸となる、「コミュニティスクール」(学力向上)、「保幼小連携教育」に関する研修を年間を通して開催できたことで、香美市の教育の周知が図られた。 ①香美市教職員総会・教育研究会(4月14日) 香美市の教育の重点的施策について ②香美市教職員研修会(8月3日) コミュニティスクールについて ③香美市保小中合同研修会(8月19日) ④香美市教育研究会(年5回) ⑤各種発表会(香美市内学校) ⑥探究的な授業づくり、学力向上モデル校、教科連携事業、道徳、外国語 ⑦キャリア教育(香美市内教職員対象) キャリア教育、特別支援教育、保小連携教育等	〔達成評価〕 A 8月の研修会アンケートより「実践に生かせる内容であった。」98%	4	4	 <p>・香美市教職員研究会(4月) ・香美市教職員研修会(8月8日前後実施) ・香美市保小中合同研修会(8月第3土曜) ・教職員の資質向上のための研修実施</p>					・研修会後アンケートで研修内容が活用できると回答(94%以上)
3 管理職研修の充実	校長会 教頭会 管理職(校長・教頭合同)研修	・国、高知県、香美市の教育計画、事業等について理解できた校長、教頭は100%(全国学調の学校質問紙で確認) ・それに基づく学校経営の実施35%(チェックシートの項目Lv3以上)	・国、高知県、香美市の教育計画、事業等について理解できた校長、教頭は100%(全国学調の学校質問紙で確認) ・それに基づく学校経営の実施50%(チェックシートの項目Lv3以上)	①校長会や教頭会(育成型)の実施と協議の場の充実 ・チェックシート(教育課程、授業及び学習状況、生徒指導)の内容を盛り込む ②校長、教頭合同研修の実施(教育課題) ③保育園長を含めた合同研修の実施と内容の充実(特別支援、こどもの体)	・毎月の校長会の実施。 ・隔月の教頭会の実施。 ・教頭会テーマ(教育計画書、業務改善、特別支援教育、情報教育、教員長講話) ・校長教頭合同研修会4月、園長との合同会7月(体幹、支援会議) 園長校長会1月(映画視聴)を実施	〔達成評価〕 A ・定例校長会は毎月実施できた。所管事項以外として、業務改善について意見を頂いた。 ・教頭会は主幹教諭も含め、交流を中心に行った。より計画的で育成型の研修を進めた。 ・合同研修会は、各園や校の交流により理解がすすんだ。 ・国、高知県、香美市の教育計画、事業等について理解できた校長、教頭(100%) ・それに基づく学校経営の実施(100%)	4	4	 <p>・管理職(校長・教頭合同)に対する研修会</p>					・国、高知県、香美市の教育計画、事業等について理解できた校長、教頭(100%) ・それに基づく学校経営の実施(100%)
4 中堅教員研修の充実	研究主任等学校経営に関わる教員の育成 ・ミドルリーダー育成研修の実施 ・児童生徒理解研修の実施 ・特別支援教育研修の実施	・研究主任は、校内研修診断「研究主題の設定と追究」2.7以上(4件法) ・道徳教育の全体計画が整理できている。 ・特別支援教育について、校内支援会議が学校が主体になって行っている。100%	・研究主任 校内研修診断「研究主題の設定と追究」3.0以上(4件法) ・道徳教育の全体計画が整理できている。(新学指対応) ・特別支援教育について、校内支援会議が学校が主体になって行っている。100%	①研究主任会の充実(年・年2回、県年2回) ②キャリア教育担当者会の実施(年3回) ③道徳教育推進地区協議会の実施(年3回) ④特別支援コーディネーター研(年4回)	①研究主任会の実施 香美市:5月26日、2月22日 県:6月27日、2月6日 ②キャリア教育担当者会年3回実施 ③道徳教育推進地区協議会年5回実施 ④特別支援コーディネーター研(年4回)実施	〔達成評価〕 B ○研究主任用「校内研修会充実のための課題解決シート」校内研修診断結果 項目:「研究主題の設定と追究」2.99p(4件法)・・・香美市学校平均 ○道徳教育の全体計画が整理できている。(中学校はH30年度完成) ○学校主体の校内支援会議100%	3	3	 <p>研究主任等学校運営に関わる教員の育成 ・ミドルリーダー育成研修の実施 ・人間関係づくり、児童生徒理解研修の実施 ・特別支援教育研修の実施 ・児童生徒理解の研修の実施</p>					・研究主任の課題意識調査 校内研修診断「研究主題の設定と追究」3.5(3件法) ・道徳教育の全体計画が整理できている。(新学指対応) ・特別支援教育について、校内支援会議が学校が主体になって行っている。

<視点>

主体的に学び、社会を生き抜く力をもった人材を育てます
 (2) 活力ある保育所・学校づくりの推進

行動実績の欄(平成30年度末の達成目標の到達評価)
 A:すでに達成している B:予定通り30年度末に達成する C:達成の見込みなし

5:想定を大きく上回る状況 4:想定以上の状況 3:想定どおりの成果
 2:改善が必要 1:見直しが必要

		平成29年度												
取組・事業名	事業の概要	年度当初の現状 (課題等)	具体的な到達目標 (有るべき姿・望ましい状況)	具体的な取り組み (計画・実施)	行動実績	到達目標の達成状況	内部 評価	外部 評価	H26	H27	H28	H29	H30	平成30年度 達成目標
5	小中連携教育の推進	子どもの育ちについて中学校区での共有の場の設定 ①授業の進め方 ②家庭学習のシステム構築 ③基本的な生活習慣の確立における連携	児童生徒の目指す姿(全国学調) ・朝食を摂る児童生徒(小96.2%、中94.1%) ・家庭学習 小学校 1時間(71%) 中学校 2時間(30%) ・テレビやゲーム、スマホ(学習外・平日)2時間以内 小学校 68% 中学校 95% ・スマホなどの使い方について、家の人との約束を守っているか。(不明)	児童生徒の目指す姿(全国学調) ・朝食を摂る児童生徒(小98%、中95%) ・家庭学習 小学校 1時間(75%) 中学校 2時間(50%) ・テレビやゲーム、スマホ(学習外・平日)2時間以内 小学校 70% 中学校 50% ・スマホなどの使い方について、家の人との約束を守っているか。(75%)	①中学校区連携協議会の実施 ②育ちの一覧表を利用した協議の実施 ・小中公開授業の参観	○各中学校区にて、連携協議会を開催 【鏡野中】5月8日、8月3日、2月(予定) 「小中の円滑な接続について(学習面・生活面)」 【香北中】5月25日、8月7日、10月26日、12月26日 「中学校区のつたえかについて」協議 【大浜中】年間10回以上実施(学校、保護者、地域) ・「小中の円滑な接続について(学習面・生活面)」 ・「ものへっこ生活リズム」検討会及び研修会	〔達成評価〕C 児童生徒の目指す姿(H29全国学調) ・朝食を摂る児童生徒(小88.1%、中85.9%) ・家庭学習 小学校 1時間(64.8%) 中学校 2時間以上(28.2%) ・テレビやゲーム、スマホ(学習外・平日)2時間以内 小学校 68.8% 中学校 60.4% ・スマホなどの使い方について、家の人との約束を守っているか。(41.8% 小:37.6% 中:46%)	2	3				子どもの育ちについて中学校区での共有の場の設定(中学校区連携協議会等での共有) ①授業の進め方の連携 ・小中学校での授業(授業研究や乗入れ)、ノート指導の統一等での連携推進 ②家庭学習のシステム構築、実践 ・小中学校の連携した家庭学習の仕方等 ③基本的な生活習慣の確立における連携 ・早寝、早起き、朝ごはん等 ・ゲームをしている時間等 ・スマートフォン等の使用の仕方等	児童生徒の目指す姿 ・朝食を摂る児童生徒(100%) ・家庭学習(平日) 小学校 1時間(80%) 中学校 2時間(80%) ・テレビやゲーム、スマホ(学習外・平日)2時間以内 小学校 80% 中学校 80% ・スマホなどの使い方について、家の人との約束を守っているか。(79%以上)
6	教育研究所による 学校支援の充実	研究活動の推進 ・キャリア教育 ・外国語活動 ・特別支援教育 学校支援推進 ・教職員育成 ・学力及び意識実態把握に関する調査及び分析 ・キャリア教育 ・特別支援教育	【学力】 H29「全国学力・学習状況調査」(全国平均との差) 小学校:国+0.6P、算+1.4P 中学校:国+0.8P、数-8.7P 【外国語】 「外国語」外国語意識調査 「外国語を学ぶことが楽しい」 小学校高学年:87.8% 中学校高学年:90% 「英語の授業が分かる」 中学2年生:44% 【英検】 英検3級程度の力を持った中学3年生31% 【特別支援】 特別な教育的支援が必要な児童生徒のうち、特別支援学級100%、通学学級の個別の指導計画作成88%	【学力】 H29「全国学力・学習状況調査」(全国平均との差) 小学校:国+0.6P以上、算+3P以上 中学校:国+0.6P以上、数+3P以内 【外国語】 「外国語」外国語意識調査 「外国語を学ぶのは楽しい」 小学校高学年:87.8% 中学校高学年:90% 「英語の授業が分かる」 中学2年生:50% 【英検】 英検3級程度の力を持った中学3年生40% 【特別支援】 特別な教育的支援が必要な児童生徒の個別の指導計画作成100%	①全国学力・学習状況調査結果集計および分析 ②香美市子ども育ち長期調査集計および分析 【外国語】 ③香美市外国語意識実態調査集計および分析 ④英検IBA結果分析 ⑤各学校への支援訪問 【特別支援】 ⑥学校訪問による点検・指導・助言 ⑦12月末の県実態調査にて検証	【学力】 ①全国学力・学習状況調査結果集計および分析(6月校長会に提供) ②香美市子ども育ち長期調査集計および分析(8月、2月校長会に提供) 【外国語】 ③香美市外国語意識実態調査集計および分析(5月、9月、2月 コアエリア推進会議に提供) ④英検IBA結果分析(1月中学校5教科部会に提供) ⑤各学校への支援訪問(通年) 【特別支援】 ⑥学校訪問による点検・指導・助言 ⑦12月末の県実態調査にて検証	〔達成評価〕B 【学力】 H29「全国学力・学習状況調査」(全国平均との差) 小学校:国+0.4p、算+4.8p 中学校:国+0.2p、数-5p 【外国語】 「外国語」外国語意識調査 「外国語を学ぶのは楽しい」小学校高学年:88.7% 「英語の授業が分かる」 中学2年生:76%(強い肯定36%) 【英検】 英検3級程度の力を持った中学3年生32.9% 【特別支援】 特別な教育的支援が必要な児童生徒の個別の指導計画作成100%	3	3			研究活動推進 ・キャリア教育(3つの柱) ・外国語活動、特別支援教育等 ・広報、啓発活動等 学校支援推進 ・教職員育成 ・学力向上への取組推進と支援 ・キャリア教育推進 ・特別支援教育推進	【学力】 H30「全国学調」で小学校は国語、算数とも全国比5P以上、中学校は国語、数学とも全国平均値以上 【外国語教育】意識実態調査 「外国語を学ぶことが楽しい」小学校高学年 90% 「英語の授業が分かる」 中学2年生60%以上 【英検】 英検3級程度の力を持っている中学3年生 40% 【特別支援教育】 特別な教育的支援が必要な児童生徒の個別の指導計画作成99%	
7	保育職員の研修	・総合研修 ・部会ごとの研修 ・ティーチャーズ・トレーニング	・研修回数等は確保されており外部の専門家による研修割合も増加したが、マンネリ化した内容で実施している研修がある。 ・保育職員総合研修(4回) ・18部会に分散して研修(各4回) ・県等の主催による研修会への参加	①保育職員総合研修(4回) ②18部会に分散して研修(各4回) ③県等の主催による研修会への参加 ④研修について保育職員にアンケート調査実施 ⑤ティーチャーズ・トレーニングの実施(8名・6回)	・保育職員総合研修(年4回実施) 実施日:4/5・8/19・10/28・1/13 ・保育職員18部会ごとの研修(各部会/年4回実施 述べ72回) ・ティーチャーズ・トレーニング(11月⇒5名・4回、12月⇒5名・4回実施) ・県等の主催による研修会への参加	〔達成評価〕A ・保育職員総合研修(年4回実施100%) ・18組に分かれた保育・給食職員相互の研修(各組年4回実施100%) ・ティーチャーズ・トレーニング(年9回実施100%、各園1名以上受講) ・県教育センター実施のステージ研修の受講(対象職員受講100%)	4	4				・保育職員総合研修(年4回実施100%) ・18組に分かれた保育・給食職員相互の研修(各組年4回実施100%) ・ティーチャーズ・トレーニング(年9回実施100%、各園1名以上受講) ・県教育センター実施のステージ研修の受講(対象職員受講100%)	・保育職員総合研修(年4回実施100%) ・18組に分かれた保育・給食職員相互の研修(各組年4回実施100%) ・ティーチャーズ・トレーニング(年9回実施100%、各園1名以上受講) ・県教育センター実施のステージ研修の受講(対象職員受講100%)	
8	香美市子ども・子育て支援事業計画の実施	・計画に基づく事業達成率65% 現場努力だけでは実施できない計画への取組みが課題 ・土曜日11時間保育の実施→なかつし大新保育園(H28未実施)、片地・新改保育園(H29未実施) ・0歳児保育の実施→片地保育園・新改保育園(H29実施)	・計画に基づく事業達成70% 事業計画の中間見直しを実施。H29年度実施計画の片地保育園0歳児保育を実施。土曜日11時間保育の未実施園(なかつし保育園)での実施を検討。	①事業の実施状況の確認・評価 ②計画の中の取組事業(一部) ・片地保育園0歳児保育受付開始(定員3名) ・なかつし保育園での土曜日11時間保育の実施	・事業の実施状況の確認・評価(H29.11/17・H30.1/17に香美市子ども・子育て会議開催、2/15開催予定) ・計画の中の取組事業のH28年度振り返り、及び事業の見直し等を行っている。	〔達成評価〕A ・事業の確認・評価については、子ども・子育て会議を招集し、審議している。 ・H29年度は子ども・子育て支援事業計画に基づく事業のうちの92%以上が計画通り・概ね計画通りに進んでいる。	4	3	①			②	香美市子ども・子育て支援事業計画 ①計画の作成 ②計画に沿った事業の実施	子ども・子育て会議を必要に応じて開催する。 子ども・子育て支援事業計画に基づく事業のうちの計画通り・概ね計画通り進んでいる割合が95%以上

<視点>

主体的に学び、社会を生き抜く力をもった人材を育てます
 (3) たくましく生きる人間力を培う教育の推進

行動実績の欄(平成30年度末の達成目標の到達評価)

A:すでに達成している B:予定通り30年度末に達成する C:達成の見込みなし

5:想定を大きく上回る状況 4:想定以上の状況 3:想定どりの成果
 2:改善が必要 1:見直しが必要

		平成29年度												
取組・事業名	事業の概要	年度当初の現状 (課題等)	具体的な到達目標 (有るべき姿・望ましい状況)	具体的な取り組み (計画・実施)	行動実績	到達目標の達成状況	内部 評価	外部 評価	H26	H27	H28	H29	H30	平成30年度 達成目標
1	学力量向上プロジェクト事業	学力量向上プロジェクト ・大学教授、東部教育事務所等による研修 ・標準学力調査による到達度把握 ・学力量向上支援員の配置 ・学力先進地視察実施 ・若年教員を育成するシステム構築と実施 ・研究主任会の充実 ・高知工科大学学生、山田高校生による学習ボランティア活動の推進	・H28「全国学力・学習状況調査」(全国平均との差) 小学校:国+0.6P、算+1.4P 中学校:国+0.8P、数-8.7P ・H28「高知県学力定着状況調査」(県平均との差) 小学校: +1.1~+P3.6 中学校: -5.4~+5.9P ・H28中3の進路実現97% ・H28標準学力調査(中2) 国語-0.8P、数学+2.0P	・H29「全国学力・学習状況調査」(全国平均との差) 小学校:国算+3P以上、中学校:国数+0P、数学-5P以上 ・H29「高知県学力定着状況調査」(小中学校:高知県平均値以上) ・H28中3の進路実現100% ・H28標準学力調査(中2) 国数全国平均以上	①東部教育事務所等指導主事の招聘 ②各種研修会の実施 ・研究主任会 ・中学校5教科部会 ・教育研究会 ③各事業における公開授業の実施	①東部教育事務所指導主事の招聘 香美市内全中学校において、指導主事を招聘した校内研究会を実施 ②各種研修会の実施 ・研究主任会(県学力研究主任会)6月27日、2月6日(市研究主任会)5月26日、2月22日 ・中学校5教科部会 全教科 年間5回の実施 ・教育研究会の実施 4月14日、6月7日、10月11日 ③県指定事業における公開授業研究会の実施 ・探究的な授業づくりに係る公開授業研究会(山田)6月28日、11月22日、1月30日(鏡野)6月23日、11月22日、2月6日 ・学力量向上モデル校(香北) ・学力量向上モデル校に係る公開授業研究会(香北)6月9日、10月26日、1月18日	〔達成評価〕B ○平成29年度「全国・学力状況調査」(全国との差) 【小】国A-0.8p 算+1.5p 算A+7.4p B+2.1p 【中】国A-1.4p B+1.8p 数A-5.8p B-4.1p ○H29「高知県学力定着状況調査」(中2) 国+2.4p(香美市61.5% 県59.1%) 社+3.1p(香美市43.9% 県40.8%) 数+8.5p(香美市52.1% 県43.6%) 理+6.2p(香美市47.9% 県41.7%) 英-0.3p(香美市49.3% 県49.6%) ○H28中3の進路実現 97% ○H28標準学力調査(中2) 全国との差 国 -0.3p(香美市70.1% 全国70.3%) 数 +3.2p(香美市61.6% 全国58.4%)	3	3				・H30「全国学調」で小学校は国語、算数とも全国比5P以上、中学校国語、数学とも全国平均値以上 ・県学力調査で小学校、中学校とも高知県平均値3P以上 ・学力調査の全ての教科で0点か0人 ・中3年生の進路保障100% ・標準学力調査(中2) 国語全国比+3P、数学+3P	
2	中学校学力量向上推進	中学校学力量向上推進 ・中学校教員の授業改善、研究授業実施 ・学力量向上アドバイザー派遣(退職教員による若年教員指導と支援) ・数学、理科学力量向上補助員の配置 ・高知県教育委員会作成シート活用促進 ・中学校5教科部会の活性化 ・中学校への工科大生派遣	・H28「標準学力調査」(平均正答率中2年) 国-0.8P 社-7.4P 数+2.0P 理-7.9P 英-0.9P ・H29「高知県学力定着状況調査」(県平均との差 中2年) 国-0.4 社+0.6 数+2.4 理+1.1 英-5.4	①東部教育事務所等指導主事の招聘 ②各指定事業における研究の充実 ・探究的な授業づくり(鏡野) ・学力量向上モデル校(香北) ・教科関連連携(大部) ③支援員の配置(鏡野) ④中学校5教科部会及び教育研究会の実施	①東部教育事務所指導主事の招聘 香美市内全中学校において、指導主事を招聘した校内研究会及び科会の実施 ②各指定事業における研究の充実 ・探究的な授業づくり公開授業研(鏡野)6月23日、11月22日、2月6日 ・学力量向上モデル校公開授業研(香北)6月9日、10月26日、1月18日 ・教科関連連携「公開授業研」(校内)(大部)4月14日、6月7日、10月11日 ③支援員の配置(鏡野)11名 ④中学校5教科部会の実施 全教科 年間5回実施 教育研究会の実施 4月14日、6月7日、10月11日	〔達成評価〕B ○H29「標準学力調査」結果(中2) 国-0.3p(香美市70.1% 全国70.3%) 社-6p(香美市45.9% 全国51.3%) 数+3.2p(香美市61.6% 全国58.4%) 理-4.8p(香美市47.8% 全国52.8%) 英-2.4p(香美市58.9% 全国61.3%) ○H29「高知県学力定着状況調査」(中2) 国+2.4p(香美市61.5% 県59.1%) 社+3.1p(香美市43.9% 県40.8%) 数+8.5p(香美市52.1% 県43.6%) 理+6.2p(香美市47.9% 県41.7%) 英-0.3p(香美市49.3% 県49.6%)	3	3				・H30中2の「標準学力調査」4月実施(国比+3p以上) ・H30中2の「高知県学力定着状況調査」1月実施(県比+3p以上)		
3	香美市チャレンジ塾	各校区での子どもの学び場の整備 ・放課後子どもプランの実施	・H28「標準学力調査」国平均正答率比較 中1 +4.4P~8.1P 中2 -7.9P~+2.0P 小4 2.0P~2.6P 小5 2.7P~5.1P	・H29「標準学力調査」国平均正答率比較で、小中学校とも全国平均値以上となる。	①放課後子ども教室(舟入小・片地小) ②放課後等学習支援事業(放課後および長期休業中)をほとんどの学校で実施。	放課後子ども教室(舟入小、片地小) 放課後学習教室(鏡野中) 放課後等学習支援事業(放課後および長期休業中)をほとんどの学校で実施。	〔達成評価〕B ・H29「標準学力調査」全国平均正答率比較 中1 -7.7p~-2p(国社数理) 中2 -6p~+3.2p(国社数理英) 小4 +3.3p~+4.3p(国+3.3 算+4.3) 小5 -2.4p~+0.2p(国-2.4 算+4.3)	3	3				・H30「標準学力調査」の達成率全国平均以上	
4	道徳教育の推進	香美市道徳教育連絡協議会による道徳教育の推進 ・心のノート、ふるさとの志、高知の道徳の活用促進 ・道徳の授業の質、教員の指導力の向上 ・家庭、地域社会を巻き込んでの取組の実施	・平成28年度全国学力学習状況調査質問紙(平成27年度比較)「難しいことでも失敗を恐れないで挑戦する」小:-9.5 中:+13.9f(人の気持ちのわかる人になりたい)小:+2.4 中:調査なし「学校の決まりを守っている」小:+0.4 中:-2.4	・平成29年度全国学力学習状況調査質問紙で「難しいことでも失敗を恐れないで挑戦する」小:人の気持ちのわかる人になりたい「学校の決まりを守っている」等の項目で平成28年度より高くなる	①香美市道徳教育推進地区協議会による道徳教育の推進 ②舟入小学校の道徳科研究指定校事業の研修成果発信	○香美市道徳教育推進地区協議会(年間5回)実施。 ○道徳科研究指定校(舟入小)研究発表会実施。(150名参加) ○香美市全小中学校道徳参観日実施 ○第2期道徳教育推進リーダー2名認定 ○道徳科研究指定校(舟入小学校)研究成果発信により、市内全小学校が新学習指導要領「特別の教科 道徳」に対応した年間指導計画及び別業を整備。	〔達成評価〕A 平成29年度全国学力学習状況調査質問紙(H29比較) ○「難しいことでも失敗を恐れないで挑戦する」小:+5.3 中:-6.7 ○「学校の決まりを守っている」小:+4.9 中:+4.6 ○「人の気持ちのわかる人間になりたい」小:調査なし 中:調査なし ○心のノート、ふるさとの志、高知の道徳を活用できた(県調査回答:100%)	4	4				・全国学力・学習状況調査で、「難しいことでも失敗を恐れないで挑戦する」「人の気持ちのわかる人になりたい」「決まりを守る」等の児童生徒の意識が、小学校6年生と中学校3年生とともに全国平均値より高くなる。	
5	人権教育の推進	-いじめ防止サミットへの積極的な参加支援 ・人権参観日の実施支援 ・学校における家庭、教職員の研修実施支援	・「自分には、よいところがあると思う」小学校-1.9P 中学校+2.9P ・「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」小学校:98.3 中学校:95.3	・自尊感情 小中学校:全国比+4P ・いじめ 小学校:98%以上 中学校:96%以上	①教師が授業や学習活動の中で、子どもたちの考えを深めたり、広げたりできるような場面を作る。 ②児童会・生徒会サミットへの意欲的な参加支援 ③人権参観日の講演会支援	○児童会・生徒会サミットへの参加支援 ○人権参観日への講演会支援 ○人権教育副読本作成のための編集委員会実施	〔達成評価〕A 平成28年度全国学力学習状況調査質問紙(全国比) ○「自分にはよいところがあると思いますか」小:77.3(全国77.9)-0.6P、中:69.2(全国70.7)-1.5P ○「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」小:92.6(-5.4P)、中97.2(-1.2P) ○学校に対する研修支援の実施	3	3				児童生徒の意識の自尊感情に係る部分の向上 ・全国学力・学習状況調査で小学校6年生、中学校3年生とも全国平均値以上となる ・高知県キャリアアンケートでは自尊感情に係る全国平均値がH26より年々向上する「自尊感情に係る」項目評価では強い肯定的評価の割合が増加する ・いじめはどんな理由があってもいけないことだと思うか」の回答(100%)	

<視点>

主体的に学び、社会を生き抜く力をもった人材を育てます

(3) たくましく生きる人間力を培う教育の推進

行動実績の欄(平成30年度末の達成目標の到達評価)

A:すでに達成している B:予定通り30年度末に達成する C:達成の見込みなし

5:想定を大きく上回る状況 4:想定以上の状況 3:想定どりの成果

2:改善が必要 1:見直しが必要

取組・事業名	事業の概要	平成29年度					内部評価	外部評価	平成30年度					
		年度当初の現状(課題等)	具体的な到達目標(有るべき姿・望ましい状況)	具体的な取り組み(計画・実施)	行動実績	到達目標の達成状況			H26	H27	H28	H29	H30	平成30年度達成目標
6 図書館教育の推進	学校や家庭、地域における読書活動の推進 ・香美市子ども読書活動推進計画の推進 ・学校図書館の整備 ・図書支援員の配置 ・図書支援員の資質向上研修の実施	・図書支援員が全小中学校に配置されている。 ・図書支援員の配置により、図書室が整備され、小学校を中心に効果的に行っている。 ・図書資料の活用頻度が高まっている。 ・学校図書館へのPCの未設置の学校がある。	・教科書に取り上げられている図書が充実している。 ・学校図書館コーディネーターを配置し、学校間及び市立図書館と連携を図り推進がすすむ。 ・教員が図書館資料を活用した授業を展開できる。(並行読書)全校 ・学校図書館にPCを設置している。(山田小、鏡野中) ・※特定事業「学校図書館を活用した読書活動」を推進する取組(図書支援員)を実施している。	①図書支援員の配置 ②学校図書館コーディネーターの配置 ③図書支援員の研修(教員と合同の研修も実施) ④図書資料の活用に関する研修の充実	①図書支援員の配置 香美市内小中学校 5名(他校と業務により100%) ②学校図書館コーディネーターを配置 ③図書支援員研修の実施 実施回数:6回 (図書担当教員との合同研修2回を含む) ④図書資料の活用に関する研修会の実施 (2月15日 講師:東京学芸大学付属世田谷小学校 司書 吉岡氏)	〔達成評価〕B ○学校図書館コーディネーターを市立図書館に配属し、学校へ充実した資料提供をするなど学校と市立図書館との連携が強化された。 ○図書館資料を活用した授業づくりのモデル校として、山田小と鏡野中が研究を行い、市内中学校へ研究内容を普及した。 ○鏡野中学校の学校図書館にPCが設置できていない。(H30年度設置予定)	3	3	H26	H27	H28	H29	H30	・学校に図書支援員を配置(小中100%) ・学校図書館にPCが整備されている。 ・市立図書館と学校図書館の連携がとれている。 ・教員が図書館資料を活用した授業を展開できる。(並行読書)支援員からの聞き取り100%
7 体力の向上	健康的な生活を送るための運動習慣を確立する。 ・運動の習慣化に対する支援	・H28年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査、小学5年男子47.7、女子49.9、中学2年男子48.4、女子48.8(全国30)。 ・H28年度一週間で運動・スポーツを1日何時間実施しているか(体育の授業以外、全国比較)小学5年男子531時間(-171時間)、女子322時間(-46時間)、中2年男子823時間(-141時間)、女子597時間(-88時間)	・本年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、全国平均に達するようにする(昨年度小学男子-2.3、女子-0.1、中2男子-1.6、女子-1.2)。 ・本年度調査において全国平均に達するようにする(小学5年-71.2時間、女子-47.7時間、中2男子-140.8時間、女子-87.7時間)	①新・高知のこども体カプアクションプランの活用 ②運動部活動サポート事業の活用 ③体力・運動能力テストを香美市全児童生徒が実施し、その結果を各校で分析し対策を実施する。 ④運動する楽しさと運動量を確保した教科体育の充実を目的とした体育科研修の実施	○うちの子どもも体力向上支援事業活用(片地小) ○運動部活動サポート事業活用(大坂中・香北中) ○体力・運動能力テスト全児童生徒実施(体育・健康アドバイザー事業によるアドバイザーの訪問により、指導助言を受けた)片地小・山田小・鏡野中・香北中)	〔達成評価〕B ○体力の値(体力合計点):平成28年度一週間で29年度(小学5男女とも前年度を上回る) ○全国体力調査A～E評価でC評価以上の児童生徒の割合が、全国順位と比べて小学5男子(+12.0)女子(+0.1)と高かったが、中2男子(-4.0)女子(-12.0)は低かった。 ○健康な生活を送るための運動週間がつけられている児童の割合はやや増えている(1週間の運動時間420分以上53.8%)	3	3	H26	H27	H28	H29	H30	・体力の値が全国平均値以上となる(全国体力・運動能力、運動習慣等調査、体力合計点 全国平均以上) ・健康な生活を送るための運動習慣がつけられている(全国体力・運動能力、運動習慣等調査「一週間で運動・スポーツを1日何時間実施しているか(体育の授業以外)」全国平均以上)
8 健康な生活の推進	児童生徒の基本的な生活習慣の確立を図る取組 ・基本的な生活習慣の確立推進 ・体力と健康、食育を関連させた取組の推進	・早寝・早起き・朝ごはんの定着・香美市食育推進計画(小学、中2調査) 毎日朝食を食べる小80.5%、中80.7% 起床時間6時30分 小学5年51.5% 中学2年56.7% 就寝時間 小学5年(22時)56.7% 中学2年(23時)60.7%	・早寝・早起き・朝ごはんの定着・香美市食育推進計画(小学、中2調査) 毎日朝食を食べる小90%、中85% 起床時間6時30分 小学5年65% 中学2年60% 就寝時間 小学5年(22時)60% 中学2年(23時)65%	①小学生「生活リズムチェックカード」の活用 ②健康教育教材「よりよい生活習慣のために」を全小中学校で活用 ③低学年用家庭で学ぶフルーツの活用 ④体育・健康アドバイザー事業の活用 ⑤香美市食育ハンドブック(中学校版)の活用	○小学生「生活リズムチェックカード」の活用 ○健康教育教材「よりよい生活習慣のために」を全小中学校で活用 ○低学年用家庭で学ぶフルーツの活用(体育・健康アドバイザー事業の活用(片地小・山田小・鏡野中・香北中)) ○香美市食育ハンドブック(中学校版)を、保健体育・家庭科・給食指導委員会活動、JA女性部との連携実習等で使用。単刀直入を促した測定等、学習内容を深めることができた。	〔達成評価〕B ○毎日朝ごはんを食べている人の割合は、小学5年生81.1%、中学2年生77.7%で、前年度より若干下がり、目標値にも至っていない。 ○朝6時半までに起きる子の割合は中学2年生63.5%で目標値60%以上を達成しているが、小学5年生は58.9%で未達成。 ○就寝時間は小学5年生58.4%、中学2年生64.9%で、中学生はほぼ目標値であるが、小学生は未達成。ただ、両方とも昨年度よりは向上している。	3	3	H26	H27	H28	H29	H30	・早寝・早起き・朝ごはんの定着 香美市食育推進計画(小学5年生、中学2年生調査)の次の目標数値を達成する 毎日朝食を食べる95%以上 起床時間6時30分 小学5年70%以上 中学2年60%以上 就寝時間 小学5年(22時)60%以上 中学2年(23時)60%以上
9 キャリア教育の推進	キャリア教育の推進 ・キャリアチャレンジデイ、キッズチャレンジデイの実施 ・キャリアの講師を招聘しての講演会 ・教職員、家庭、地域に対する研修会の実施	・「郷土への愛着」 小学6年生:91% 中3年生:77% ・「自分には、よいところがあると思いませんか?」 小学校:74.4(全国76.3)-1.9P 中学校:72.2(全国69.3)+2.9P ・「難しいことでも失敗を恐れないで挑戦している」 小学6年生:76.5 中3年生:75.2 ④キャリアチャレンジデイ・キッズチャレンジデイ実施	・「郷土への愛着」 小学6年生:93%以上 中3年生:80%以上 ・「自分には、よいところがあると思いませんか?」 小学校:昨年度よりも+5P 中学校:昨年度と同程度または+2P ・「難しいことでも失敗を恐れないで挑戦している」 小学6年生:77%以上 中3年生:77%以上 ・キャリアチャレンジデイ・キッズチャレンジデイ実施	①各学校で教科・総合的な学習の時間の中での地域学習の実施 ②教師が授業や学習活動の中で、子どもたちの考えを深めたり、広げたりできるように場面を作る。 ③土曜授業の実施、内容の充実	○全小中学校で、キャリア教育の視点を入れた授業を実施。 ○キャリアチャレンジデイの実施(10人、生徒約320人、ボランティア約100人) ○各キッズチャレンジデイの実施(11月～12月)	〔達成評価〕B ○「郷土への愛着」 小学6年生:95%、中3年生:89% ○「自分には、よいところがあると思いませんか?」 小学6:77.3(+2.9P)、中3:69.2(-3.0P) ○「難しいことでも失敗を恐れないで挑戦している」 小学6:81.8(+5.3)、中3:68.5(-6.7P) ・キャリアチャレンジデイ・キッズチャレンジデイ実施	3	3	H26	H27	H28	H29	H30	・「郷土への愛着」 小学6年生:95% 中3年生:89% ・「自分には、よいところがあると思いませんか?」 小学6、中3生:全国+3P ・「難しいことでも失敗を恐れないで挑戦している」 小学6年生:76.5 中3年生:75.2 ・キャリアチャレンジデイ・キッズチャレンジデイ継続

<視点>

市民が協働し、ともに支え合い、高め合う地域社会を築きます

(1) 香美市のたからを活かしたふるさと教育の推進

行動実績の欄(平成30年度末の達成目標の到達評価)

A:すでに達成している B:予定通り30年度末に達成する C:達成の見込みなし

5:想定を大きく上回る状況 4:想定以上の状況 3:想定どりの成果

2:改善が必要 1:見直しが必要

平成29年度										
取組・事業名	事業の概要	年度当初の現状(課題等)	具体的な到達目標(有るべき姿・望ましい状況)	具体的な取り組み(計画・実施)	行動実績	到達目標の達成状況	内部評価	外部評価	H26 H27 H28 H29 H30	平成30年度末達成目標
1	香美市社会科副読本活用推進(支援員配置)(社会教育施設の活用)	香美市社会科副読本の活用 ・ふるさとプログラム支援員配置 ・テスト、指導書、電子版作成	・「自分の住んでいる地域が好きである」小6年生:91% ・香美市社会科副読本改訂版完成 ・香美市社会科副読本改訂電子版完成	・「郷土への愛着」小6年生:93%以上 中3年生:80%以上 ・平成31年度から使用する香美市社会科副読本の作成	①龍河洞プログラムの実施(全小学3年生対象) ②各学校で教科・総合的な学習の時間の中での地域学習の実施 ③香美市社会科副読本の執筆・作成	○年間10回の社会科副読本編集委員会を実施。 ○龍河洞プログラム実施のための支援。 〔達成評価〕B ○「自分の住んでいるところが好きである。」小6:89.7%(+19.7P)中3:78.1%(+8.1P) ○副読本中の写真、グラフ、補足資料等は、作成済み	3	3	→	・児童生徒の意識「私は自分の住んでいるところが好きだ」(H26年56.1%→H30年70%) ・電子版「社会科副読本」の作成
2	香美市ふるさとプログラムの実施	香美市ふるさとプログラム ・香美市ふるさとプログラムの作成と実施 ・香美市の社会教育資源の積極的活用	・香美市の資源を活用した学習の実施 龍河洞100%、高知工科大学100%、吉井勇記念館26%、特産物100% ・「自分の住んでいる地域が好きである」小6年生:91%、中3年生:77%	・香美市教育資源を活かした学習 龍河洞100%、高知工科大学100%、吉井勇記念館40%、特産物100% ・「郷土への愛着」小6生:93%以上 中3生:80%以上	①各学校で教科・総合的な学習の時間の中での地域学習の実施 ・龍河洞プログラム、キャリアチャレンジ	○9月に全小学校3年生(約190人)を対象に龍河洞プログラムを実施。 ○小学校で、社会科や総合的な学習の時間の中で香美市の社会教育資源を活用。 〔達成評価〕B ○「自分の住んでいるところが好きである。」小3:78.1%(+8.1P) ・龍河洞(63%) ・高知工科大学(81%) ・吉井勇記念館(9%)	3	3	→	・香美市の教育資源を活用した学習ができた(中卒業時)龍河洞(100%) 香美市の特産品(100%) 高知工科大学(100%) 吉井勇記念館(50%) 特産物(100%) ・児童生徒の意識「私は自分の住んでいるところが好きだ」(H26年56.1%→H30年70%)
3	香美市の森の学習(山の学習)	香美市山の学習 ・森林、物部川学習の推進 ・「山の学習事業」の積極的活用	中学3年生対象 ・森林学習、児童生徒体験(100%)実施 ・香美市の山に登ったことがある。(23%) ・物部川で活動したことがある。(91%)	中学3年生対象 ・森林学習、児童生徒体験(100%)実施 ・香美市の山に登ったことがある。(30%以上) ・物部川で活動したことがある。(93%以上)	①②③全学校で「山の学習事業」や教科・総合的な学習の時間を活用した森林学習の実施	○香美市内全小中学校が、事業実施計画に基づいた取組を行った。 〔達成評価〕B ○香美市森林学習、児童生徒体験(中3:100%) ・香美市の山に行ったことがある(12%) ・物部川で活動したことがある。(75%)	3	3	→	・香美市森林学習、児童生徒体験(100%) ・香美市の山に登ったことがある。(100%) ・物部川で活動したことがある。(100%)
4	香美市小中学校子ども議会(毎年実施)	・香美市子ども議会の開催 ・香美市子ども議会の開催	・香美市子ども会議から出た活動の実施(子ども祭りの開催、歌CD作成・配付)	・香美市子ども会議から出た活動の実施(子ども祭りの山田高と共催で開催、歌CDの普及)	①香美市子ども祭りの実行委員会の実施(年間8回) ・子ども祭りのポスター作成 ・子ども祭りの計画・実施	○山田高等学校文化祭と合同で子ども祭りの計画実施。 ○子ども会議新聞の作成。 〔達成評価〕A ○子どもたちの街づくりへの参画、地域の祭り等への参加(小:80.9%、中:79.0%) ○子ども祭りの計画実施(5回) ○子ども会議新聞の作成(3号発行) ○香美市の歌CD作成(H28年度完了)	4	4	→	・子どもたちの街づくりへの参画、地域の祭り等への参加(85%以上) ・香美市子ども会議と活動の実施 ・香美市子ども祭りの開催 ・香美市の歌CD作成・配付
5	食育の推進 香美市食育推進計画	健康と食を関連させた食育推進 ・健康と食を関連付けた教育実践の取組	・香美市食育推進計画目標(前年比)早寝(小5:+9.8%中2:23.4%)早起き(小5:-14.2%中2:+3.6%)朝ごはん(小5:-1.3%中2:-0.3%)	・香美市食育推進計画目標の達成	①香美市学校食育推進事業により指定校4校(大宮小学校・香北中学校・楠目小学校・大橋小学校)を中心に基本的な生活習慣の確立に取り組む	○香美市学校食育推進事業実行委員会(3回)実施。 ○香美市食育庁内会(3回実施) ○栄養教諭の活用(文部科学大臣表彰) ○食育推進校(楠目小)の児童発信による地域食材活用「ネギ豚丼プロジェクト」 〔達成評価〕A ○早寝については、小学生は目標値には届いていないが増加しており、中学生は目標値を達成している。 ○早起きについては、小学生は目標値には届いていないが増加しており、中学生は目標値を達成している。 ○朝食を毎日食べている人の割合については、小学生、中学生ともに職減している。 今後も栄養教諭と連携しながら、基本的な生活習慣の確立に取り組んでいく。	4	3	→	・早寝・早起き・朝ごはん(平成24～29年度実施香美市食育推進計画の目標値を達成するかそれ以上)
6	香美市防災教育の推進	防災教育の推進 ①防災・減災の知識の確立 ②危険回避できる力の要請 ③避難行動 ④災害時に役立つ情報と防災活動に積極的に参加	高知県安全教育プログラムに基づく避難訓練と防災学習の実施(防災・自助に関するアンケートは未実施)。	・防災教育の推進(1から4)までの力が児童生徒に身につけており、災害時に自助・共助の行動が取れる (防災・自助に関するアンケートの実施:緊急時の自助行動、防災・減災についての理解90%)	①地域を巻き込んだ防災学習や南海トラフ地震を想定した避難訓練の実施。 1防災・減災の知識の確立(防災の授業実施年3時間以上) 2危険回避できる力の養成(防災の授業実施年3時間以上)(避難訓練年3回以上) 3避難行動(避難訓練年3回以上) 4災害時に役立つ情報と防災活動に積極的に参加(地域の防災訓練等への参加1回以上)	○各校が学校安全計画通り、火災・地震・不審者対策と工夫した訓練を実施できた。吹き出しや引渡しなど、家庭・地域と協力した訓練や、予告なしのショート訓練を実施している学校もある。 〔達成評価〕B ○キッズチャレンジデイや参観日を活用し、地域やPTAとともに防災教育に取り組むことができた。 ○防災・自助に関するアンケートは2月中に実施予定→未実施	3	3	→	・①から④までの力が児童生徒に身につけており、災害時に自助・共助の行動が取れる (防災・自助に関するアンケートの実施:緊急時の自助行動、防災・減災についての理解100%)

<視点>

市民が協働し、ともに支え合い、高め合う地域社会を築きます
 (2) 子育て支援と親支援の推進

行動実績の欄(平成30年度末の達成目標の到達評価)

A:すでに達成している B:予定通り30年度末に達成する C:達成の見込みなし

5:想定を大きく上回る状況 4:想定以上の状況 3:想定どおりの成果
 2:改善が必要 1:見直しが必要

		平成29年度							平成30年度末達成目標				
取組・事業名	事業の概要	年度当初の現状(課題等)	具体的な到達目標(有るべき姿・望ましい状況)	具体的な取り組み(計画・実施)	行動実績	到達目標の達成状況	内部評価	外部評価	H26	H27	H28	H29	H30
1	香美市教育の日地域の人々を学校へ	香美市教育の日推進 ・「教育の日」への講師派遣支援 ・「教育の日」の取組等、情報発信支援 ・「教育の日」の体験活動支援	・毎月20日は、「教育の日」を実施している。 ・地域の方々の学校行事等への参加数(H28) *CS及び設置推進委員会の実績(のべ人数) 【片地小】514名 【大栃小】299名 【大栃中】331名	・毎月20日は、「教育の日」を実施している。 ・地域の方々の学校行事等への参加数(H29) *CS及び設置推進委員会の実績(CS実施校のべ人数) 【片地小】520名 【大栃小】300名 【大栃中】350名	①「教育の日」の市内への広報 ②地域の方が参加できる学校行事等を、市内に発信 ③市内全学校がコミュニティスクールに向けた取組の推進	①②広報に「教育の日」のお知らせや、各学校の行事等を掲載した。 ③市内全学校がコミュニティスクール(以下CS)に向けた取組を推進した。 H29 CS:片地小、大栃小、大栃中 H30 CS(導入予定):香長小、舟入小、楠目小、大宮小、香北中 H31CS(導入予定):山田小、鏡野中	【達成評価】 A ○地域の方々の学校行事等への参加数(12月まで) *CS及び設置推進委員会の実績(のべ人数) 【片地小学校】800名 【大栃小学校・大栃中学校】2000名	4	4	<p>香美市教育の日推進 ・「教育の日」への講師派遣支援 ・「教育の日」の取組等、情報発信支援 ・「教育の日」の体験活動支援</p>			・参加者の増加 保護者だけでなく、地域の人の参加も増加している ・教育の日の質の向上 ・教育の日への参加者だけでなく、ともに学びあう場がある ・学校の役割の情報発信と啓発 地域に学校が取組んでいることを十分に発信することができている
2	子育て専門家支援家庭支援推進事業	特別な支援を必要とする家庭等に支援を行う。	・子育てを支援する上での専門家や支援員の増員が内外で求められている。	・支援を必要とする人が支援を必要とするとき、十分な対応ができる体制をつくる	①特別支援保育コーディネーターの配置(2名(予定)) →現在1名配置しているが、もう1名については現在 欠員状態で適任者を募集中 ②家庭支援員の配置(2名) → クラス担任は持っていないものの選考任務があるため、家庭支援に専念できる時間が限られる	・特別支援保育コーディネーターを1名配置。支援を必要とする人に、対応をする手助けができた。 ・家庭支援員(保育士)をなかよし保育園、あけぼの保育園に各1名配置	【達成評価】 A ○特別支援保育コーディネーターの配置(1名) ・児童、保護者、職員への支援はできた。 ○家庭支援推進保育士を配置(2施設各1名) ・配置できていない施設でも担任等が対応した。	4	3	<p>子育て専門家支援家庭支援推進事業 ・専任家庭支援員配置、相談活動の充実 ・子どもの成長を見取る専門家派遣 ・保護者、保育士対象研修会実施(食育、子どもの発達、寝、特別支援等)</p>			・特別支援保育コーディネーターを2名配置、家庭支援員(保育士)を全園に配置し、各園で把握している要支援家庭に対する育児相談等の働きかけが100%出来ている。
3	子育てひろば	子育て親子の交流の場の提供と交流の促進を目的に子育て支援センターで子育てひろばを開催している。	・H28年度アンケート結果 子育てひろばの内容に満足している利用者の割合89.8%(5段階評価の5) (H27年度78.4%)	・子育てひろばに満足している利用者の割合85%以上を維持する。(5段階評価の5)	①子育てセンターなかよし 子育てひろば 月～金(9:30～11:30)開催 子どもの発達や年齢に応じた遊びや子育ての知識などを提供し、子育て家庭の交流を促す ②アンケートを実施 (新規登録者に随時および利用者にH297月、H301月) ③他市町の子育てひろばの視察	①子育てひろばを開催(月～金) なかよしひろば184回開催;利用者延べ2263人 にこにこひろば182回開催;利用者延べ544人(12月末) ②新規利用者に子育てひろば登録票にてアンケートを実施(随時) ・子育てひろばを利用している保護者を対象に、ニーズ把握のため定期アンケートを実施(H297月、H301月) ③高知市、南国市の子育てひろばの視察	【達成評価】 B 子育てひろばに満足している利用者の割合(5段階評価の5) 84.9%	3	3	<p>子育て支援センターで子育てひろばを開催</p>			・子育てひろばの内容に満足している利用者の割合85%以上
4	子育てに関する相談・援助	子育てひろばでの相談や電話・来所相談で随時相談を受け付けている。また、健康介護支援課と協働で子育て支援センターで月1回育児相談を実施している。	・H28年度相談・援助件数480件 (H26年度430件)	・相談・援助件数年間480件以上を維持する	①保育士、栄養士、保健師等専門スタッフによるひろば・電話・来所等での相談(随時) ②育児相談 子育てセンターなかよし・ひろば(1回/月) 大栃保育園(1回/2か月) ③産後早期の親子を対象とした産後サポート事業「ママのサポートルーム」を実施(1回/月) ④未就園で子育てセンターを利用していない家庭に対して保育士による訪問支援を実施	①保育士、栄養士、保健師等専門スタッフによるひろば・電話・来所等での相談(随時) ②育児相談 子育てセンターなかよし・ひろば(1回/月) 大栃保育園(1回/2か月) ③産後早期の親子を対象とした産後サポート事業「ママのサポートルーム」を実施(1回/月) ④未就園で子育てセンターを利用していない家庭に対して保育士による訪問支援を実施	【達成評価】 A 相談・援助件数 401件(12月末) 年間見込 534件 ①ひろば随時相談(12月末) 122件(なかよし88件、ひろば34件) ②育児相談 なかよし:延185人 ひろば:延35人 大栃保育園:延2人 ③ママのサポートルーム 母親延べ参加数 29人 ④訪問件数 28件	4	4	<p>子育てひろばでの相談 電話・来所などによる相談 育児相談の実施 ママのサポートルームの実施 訪問支援の実施</p>			・相談・援助件数 年間480件以上
5	地域の子育て関連情報提供	毎月子育て通信を発行し子育てひろばのイベント情報や子育て情報を提供している。また、さまざまな機会を活用し地域の子育て関連情報を提供・広報活動している。	・H28年度子育てひろば利用者数、相談・援助者数、一時預かり利用者数の合計6289人 (H26年度4925人)	・子育てひろば利用者数、相談・援助者数、一時預かり利用者数の年間合計5500人以上を維持する。	①「子育ておひさま通信」を発行・配布・ホームページへの掲載(1回/月) ②「楽しい子育て応援します」の配布・ホームページへの掲載(随時) 窓口への設置、乳幼児健診、保健師訪問等を活用して配布 ③「子育てガイド」を年1回更新し、窓口への設置や関係機関等から配布(転入児の家庭には健康介護支援で配布) ④「子育てサークルガイド」を発行し、窓口への設置、子育てサークルや関係機関等に配布 ⑤乳幼児健診でおひさま通信を配布し、利用を勧める(1回/月)	①「子育ておひさま通信」を発行・配布・ホームページへの掲載(1回/月) ②「楽しい子育て応援します」の配布・ホームページへの掲載(随時) 窓口への設置、乳幼児健診、保健師訪問等さまざまな機会を活用して配布 ③「子育てガイド」を年1回更新し、窓口への設置や関係機関等から配布(転入児の家庭には健康介護支援で配布) ④「子育てサークルガイド」を発行し、窓口への設置、子育てサークルや関係機関等に配布 ⑤乳幼児健診でおひさま通信を配布し、利用を勧めている(1回/月)	【達成評価】 B 子育てひろば利用者数 相談・援助者数 一時預かり利用者数の合計3933人(12月末) 年間見込 5244人	3	3	<p>子育て通信の発行 地域の子育て関連情報の提供や 広報活動</p>			・子育てひろば利用者数、 相談・援助者数、一時 預かり利用者数合計 年間5500人以上

<視点>

市民が協働し、ともに支え合い、高め合う地域社会を築きます
 (2) 子育て支援と親支援の推進

行動実績の欄(平成30年度末の達成目標の到達評価)

A:すでに達成している B:予定通り30年度末に達成する C:達成の見込みなし

5:想定を大きく上回る状況 4:想定以上の状況 3:想定どおりの成果
 2:改善が必要 1:見直しが必要

		平成29年度												
取組・事業名	事業の概要	年度当初の現状 (課題等)	具体的な到達目標 (有るべき姿・望ましい状況)	具体的な取り組み (計画・実施)	行動実績	到達目標の達成状況	内部 評価	外部 評価	H26	H27	H28	H29	H30	平成30年度末 達成目標
6	子育てに関する講習会	子育てひろばを活用して、子育てに関する子育て講座や講演会を開催している。	・H28年度アンケート結果 子育てひろばの内容に満足している利用者の割合89.8% (5段階評価の5) (H27年度78.4%)	・子育てひろばに満足している利用者の割合85%以上を維持する。 (5段階評価の5)	<子育て講座・講演会の開催> ①つくてみよう、親子ふれあいリズム、誕生会など ②ミニ運動会(土曜日開催) ③外部講師による歯の講座、食育講座、救急救命講座、絵本の読み聞かせ ④果実事業を活用し、「親子ふれあいマッサージ」こどもの育ちとおもちの関わり」「小児科医による子育て講演会」を実施 ⑤園保護会事業を活用し、健康介護支援課と協働で「もっと知りたい乳がんのこと乳がん予防啓発事業」を実施。	〔達成評価〕 B 子育てひろばに満足している利用者の割合(5段階評価の5) 84.9%	3	3						子育て講座や講演会の実施 ・子育てひろばの内容に満足している利用者の割合85%以上
7	子育てサークル支援	地域で活動している子育て支援団体とネットワークを構築し、地域全体で子育て支援の基盤づくりをすることを目的に子育てサークル交流会等を開催している。	・5/24民生児童委員総会にて、子育てセンターを紹介。 ・6/2香美市子育てサークル交流会を開催。 子育て支援団体の情報発信を支援	・子育て支援団体の連携強化のための取り組みを継続する。	①子育てサークル交流会2回開催 6/2交流会、11/21研修会 ②子育て支援団体のちろぼみみ会議」への参加 ③ちろぼみみ通信の配布、ハッピーチルドレンのちらしや子育てに関する研修会等の案内等を示す ④香美市立図書館と連携し、絵本の読み聞かせなどを実施 ⑤民生児童委員に子育てセンターの紹介をする ⑥子育てひろばの行事へ民生委員や地域の人が参加	〔達成評価〕 A 子育て支援団体の連携強化のための取り組みを継続。	4	3						子育て支援団体とネットワークを構築 ・子育てサークル交流会2回/年 ・ちろぼみみ会議への参加 ・子育てサークルの通信の配布やちらしの掲示 ・子育て支援に関する研修会の案内 ・絵本の読み聞かせを定期的実施 ・子育て支援団体の連携強化のための取り組みを継続
8	一時預かり	保育園等を利用していない香美市内に住所を有する就学前の児童を対象に、昼間において子育てセンターで一時的に預かっている。	・H28年度一時預かり数1094人 (H26年度677人)	・一時預かり数年間750人以上を維持する。	①子育てセンターなかよし・びらふで実施(月～金) ②保護者のニーズに対応できるように体制を整備し、可能な限り受け入れに努める ③保育園児と交流するなど児童の心身の発育・発達を促し、保護者との関わりを持ちながら、親子を支援する	〔達成評価〕 A 一時預かり延べ人数725人(12月末)年間966人見込み	4	4						一時預かり事業の実施 ・一時預かり数年間750人以上
9	マタニティママのつどい	妊娠・出産・子育てに関する知識や技術を学び、参加者同士の交流によって安心して子育てができることを目的に、妊婦とその家族を対象にマタニティママの集い(両親学級)を開催している。	・H28年度参加延べ人数41人 (H26年度45人)	・年間参加延べ数50人以上	①各講座を3回ずつ9回実施し、コースで区切らずに、参加しやすくする ②健康介護支援課が対象妊婦に個別通知し、さらに初妊婦には電話をして周知する ③保健師、助産師、栄養士等専門スタッフによる講話と実技を実施	〔達成評価〕 B 参加延べ数 49人(再掲:夫12人)	3	3						「マタニティママのつどい」を開催 ・子育てセンターなかよしの年9回実施 ・参加延べ人数年間50人以上
10	子育てサポート体験	将来親となる高校生を対象に、福祉・看護・保育・子育てに関心を持ってもらうことを目的に、子育てサポート体験を実施している。	・H28年度参加生徒全員が子どもに対して肯定的な思いを持っていた (感想文より)	・参加生徒全員が子どもに対して肯定的な思いを持つ (感想文より)	①山田高校3年生家庭科専攻の生徒が、子育てひろばで親子との交流をしたり、子どもの発達の講話などを聴く体験を通じて、子育てについて学ぶ ②昨年度は、両センターで実施していたが、学校から近く、親子の参加数が多い子育てセンターなかよしのみで実施する	〔達成評価〕 A 参加人数 14人 全員が子どもや子育てに対して肯定的な思いを持っていた。 (参加時や終了後ミーティングでの話、感想文などより)	4	3						子育てサポート体験の実施 ・参加生徒全員が子どもに対して肯定的な思いを持つ (感想文より)

<視点>

市民が協働し、ともに支え合い、高め合う地域社会を築きます
 (3) 市民協働で地域の教育力を高める取組の推進

行動実績の欄(平成30年度末の達成目標の到達評価)

A:すでに達成している B:予定通り30年度末に達成する C:達成の見込みなし

5:想定を大きく上回る状況 4:想定以上の状況 3:想定どおりの成果
 2:改善が必要 1:見直しが必要

取組・事業名	事業の概要	年度当初の現状(課題等)	具体的な到達目標(有るべき姿・望ましい状況)	具体的な取り組み(計画・実施)	平成29年度		平成30年度末							
					行動実績	到達目標の達成状況	内部評価	外部評価	H26	H27	H28	H29	H30	達成目標
1 学校支援地域本部事業	地域の人が学校教育に係る活動の充実	・各地域学校協働本部が4部会以上で構成され、組織ができていない。 ・市主催の地域学校協働本部事業の連絡協議会ができていない。 ・活動のべ人数3,556人	・各地域学校協働本部が4部会以上で構成され、組織ができていない。 ・年間2回の地域学校協働本部事業の連絡協議会が実施。 ・活動のべ人数が3,600人以上にする。	①学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てる体制を充実させるために各学校のコーディネーターが中心となってボランティアの調整等を行い学校支援を行う。授業の補助、学習支援、環境整備、学校行事支援、登下校の見守り等の活動を行う。 ②市の運営委員会を開催し、各学校の活動充実につながるよう進めていく。	○高知県地域による教育支援活動研修会(7月11日)に管理職、コーディネーター等7名が参加 ○東部地区教育事務所関係学校支援地域本部事業研修会を大府中で開催(12月11日)し、管理職、教職員、コーディネーター等8名が参加し、物部地域学校協働本部の取組を学習した。 ○香美市地域コーディネーター連絡協議会を2月19日に実施し、それぞれのコーディネーターが連携し、活動に取り組み始める組織作りを考える。	〔達成評価〕B ○地域学校協働本部9本部のうち、7本部が組織立てて、「学習支援」「地域活動」「環境整備」「登下校安全指導・学校行事支援」の4部の支援活動を実施。 ○地域学校協働本部の連絡協議会は9本部のうち6本部で実施。 ○活動延べ人数1月末約4,400人以上	4	4						・各地域学校協働本部が4部会以上で構成され、組織ができていない。 ・年間3回の地域学校協働本部事業の連絡協議会での実施。 ・活動のべ人数4,000人以上
2 放課後子ども教室推進事業	放課後子ども教室推進事業	・舟入小・片地小及び中央公民館は継続して実施。鏡野中は同一内容で放課後等学習支援事業にH28年度より移行した。	・子ども教室の実施を希望する学校があれば、全ての学校で実施を検討する。	①舟入小学校・片地小学校で継続して実施することとなり、1週間あたり2〜3日程度の開催を計画している。	○子ども教室開設日数:舟入小160日、片地小110日、中央公民館115日	〔達成評価〕A ○1日あたりの平均参加児童生徒数 舟入小:25人 片地小:21人 中央公民館:7人 残り8校については、放課後等学習支援事業及び放課後児童クラブ推進事業により実施している	4	4	①	②				・各校や公民館で放課後子ども教室等により子どもの安全で健やかな居場所づくりができていない(100%)
3 コミュニティ・スクール事業	コミュニティ・スクール設置に向けて研究を進める	・片地小学校・大新小・中学校でコミュニティ・スクールの設置 ・上記以外の7校で設置推進委員会	・7校の小中学校のコミュニティ・スクールの設置 ・3校で設置準備委員会	①学校運営協議会の組織づくり ②地域学校協働本部との連携づくり ③先進校視察等の研修	○全小中学校にコミュニティ・スクール設置推進委員会を設置。 ○香美市CS研修会の実施(6月、約100名参加)○先進校視察(岡山市35名・横浜市4名) ○CSフォーラムへの参加(岐阜5名、徳島32名、東京3名) ○リーフレット・チラシ・カレンダーの作成、配付	〔達成評価〕A ○各学校で学校運営協議会設置に向けて準備を進め、来年度市内8校がCSをスタートさせる。	4	4					・片地小学校での研究、実施 他校での導入研究推進 ・コミュニティスクール事業	・各校でCS設置または設置に向けた準備ができていない。(100%)
4 放課後児童クラブの充実	児童クラブ充実事業 ・児童クラブ指導員の研修の実施 ・児童クラブの環境整備	・6/8の児童クラブは指導員が認定資格を保有してきている。 ・新築を予定している4児童クラブのうち大宮小・大新小児童クラブの新築により50%完了。 山田小児童クラブは建築地について検討中。	・8クラブすべてに認定資格保有者を確保する。 ・施設建築が可能な環境を整備する。	①認知資格を保有するため、高知県が開催する放課後児童支援員認定資格研修に参加する。 ②小学校から離れた場所にある、2児童クラブ(くじら・めだか児童クラブ)の新築工事に向け、小学校内又は近隣に施設建築のできる土地の環境を30年度を目処に整える。	○放課後児童支援員認定資格研修及びその他の研修等にも随時参加。 ○山田小児童クラブ建設に向けて建設用地の調整等を行った。	〔達成評価〕B ○放課後児童支援員認定資格研修に参加して5人が認定資格取得。 ○山田小児童クラブの建設用地については、調整中。	3	3						・各児童クラブに認定資格を保有する指導員を配置し、安定した支援状況を確認する。 ・小学校から離れた場所にある児童クラブについて、小学校内または近隣に新築工事を実施し、子どもにとって利便性が高く、機能的な施設整備を行う。
5 学校評価の推進	学校評価の推進 ・学校関係者評価の推進と拡充 ・香美市教育振興基本計画と連動した評価のあり方研究、および評価	・計画的評価ができ、家庭、地域にHP等で広報ができていない。 ・香美市教育振興基本計画を直接意識したものにはなっていない。 ・すべての学校の全項目でA以上である。	・計画的評価ができ、家庭、地域にHP以外でも積極的に広報する。 ・香美市教育振興基本計画の内容を計画書で確認を行う。 ・すべての学校の全項目でA以上である。	①委員への事前説明、学校とのヒアリング等を行い、計画的な学校関係者評価の実施をすすめる。 ②教育振興基本計画について、学校と初年度、中間、最終ヒアで進捗確認を行う。	4月計画書の作成、5月に委員とのヒアリング、8月中旬検証ヒアリング、1月最終自己評価書を作成・ヒアリング、2月評価者によりまとめ、HPへの公開。その都度、関係者評価委員による学校訪問を実施。	〔達成評価〕B 前年度の評価委員からの評価を活かしながら、アクションシートを作成。学校経営計画と並行し、取組を進めることができた。家庭、地域に開かれた計画的評価ができていない。 ・香美市教育振興基本計画と連動した評価ができていない。 ・すべての学校の全項目でA以上は、34/50。	3	3						・家庭、地域に開かれた計画的評価ができていない。 ・香美市教育振興基本計画と連動した評価ができていない。 ・すべての学校の全項目でA以上である。

<視点>

夢を育み、新たな価値を創造する教育を展開します

(1) 次世代を見通した教育の環境整備と実践

行動実績の欄(平成30年度末の達成目標の到達評価)

A:すでに達成している B:予定通り30年度末に達成する C:達成の見込みなし

5:想定を大きく上回る状況 4:想定以上の状況 3:想定どおりの成果

2:改善が必要 1:見直しが必要

		平成29年度												
取組・事業名	事業の概要	年度当初の現状 (課題等)	具体的な到達目標 (有るべき姿・望ましい状況)	具体的な取り組み (計画・実施)	行動実績	到達目標の達成状況	内部 評価	外部 評価	H26	H27	H28	H29	H30	平成30年度末 達成目標
1	ICT機器整備	ICTの整備とそれを生かした授業の実施 ・ICT活用の授業の推進 ・ICT活用の授業の研究推進 ・ICT活用の交流活動の推進 ・ICT活用の情報発信の推進 ICT整備	・平成28年度情報機器の計画どおり整備を進めることができている	・情報機器の計画どおりの整備ができる ・市指定校による情報機器を使った授業公開の実施	①山田小、大宮小、大栃小へのwifi、タブレットの整備 ②ふれんどルームへのwifi、タブレットの整備 ③ICT支援員1名の配置 ④情報セキュリティに伴う整備	・山田小でタブレットを使った公開授業を行い、多くの参加者を得た。 ・ICT支援員を配置、HPの支援や教員の学習支援を行った。工科大生サークルとつないだ。 ・計画どおり機器の導入ができた。	3	3	 ICTの整備とそれを活用した授業の実施 ・ICT活用の授業の推進 ・ICT活用の授業の研究推進 ・ICT活用の交流活動の推進 ・ICT活用の情報発信の推進 ICT整備 ・次代を見据えたICT整備 電子黒板、タブレットPC等					・すべての学校で規模にあった教育サービスを受けているか(整備状況に差が無い・整備計画の遂行) ・電子黒板 ・タブレット ・PCまたは学習用スマートフォン ・教員用PC、タブレットPC ・スクリーンプロジェクター(100%) ・ふれんどルームのタブレット等の整備
2	情報モラル教育の推進	教職員に関する情報モラル教育の実施 児童生徒に対する情報モラル教育の実施	・情報モラル教育が実施されている(全小中学校) ・情報モラルが指導できる教員(強い肯定28.7%) ・児童生徒及び教員のモラルや情報セキュリティの甘さが心配される	・情報モラル教育が実施されている(全小中学校) ・携帯電話やスマホの利用についての家での決まりを守っている児童生徒は小学校で約70%、中学校で約70%以上。(全国学調)	①教員に対する研修は、保護者も含めた研修の機会のサポート ②児童生徒には、各校が警察や高知工科大生によるSNS等の研修を推進…工科大生への支援 ③情報セキュリティを含めた教員研修の実施(10月)	・市教委主催の研修は、計画できていないが、学校では、教員や保護者、児童生徒に対して行っている。 ・SNSの研修を工科大生を招いて、2小学校が行った。	3	3	 ・教職員に対する情報モラル教育の実施 ・児童生徒に対する情報モラル教育の実施					・系統に基づいた情報モラル教育が実施されている ・情報モラルが指導できる教員(強い肯定40%) ・児童生徒が電子機器の利点について理解し、使用できるとともに脅威についても理解している(100%)
3	情報リテラシー教育の推進	教職員へのICTリテラシー研修の推進	・教職員は「興味関心を高める機器の使用ができる」(強い肯定32.7%) ・教職員はワード、エクセル、PP、メールは自由に使用できる(86.4%)	・教職員は「興味関心を高める機器の使用ができる」(強い肯定35%) ・教職員はワード、エクセル、PP、メールは自由に使用できる(88%)	①ICT支援員1名の配置と学校への支援 ②工科大生による支援と研修(市指定校による情報機器を使った授業公開への支援)	・各校のHPの更新状況を2ヵ月に1回程度確認した。 ・市指定校して、舟入小、山田小、片地小、香長小、大宮小、大栃小、大栃中を指定。山田小から、本年度の取組の発表があった。	3	3	 ・教職員へのICTリテラシー研修の推進					・教職員は「興味関心を高める機器の使用ができる」(強い肯定50%) ・教職員はワード、エクセル、PP、メールは自由に使用できる(90%)
4	環境教育 エネルギー教育の推進	環境教育、エネルギー教育の推進 ・環境教育、エネルギー教育の香美市の教育計画の作成と実施 ・高知工科大学、県立山田高等学校と連携して推進 ・子どもエコクラブ活動、みどりの小道環境日記の活動促進 ・地域と連携したCO2排出削減促進事業での活動促進	・小学校において総合的な学習の時間を利用した環境学習がすすんでいる。 ・小学校を中心にCO2排出削減に向けて学習に取り組むとともに、地域の団体においてもCO2排出削減について啓発している(クールチョイス賛同者329人 H29.2月未現在)。	・環境学習の成果をクールチョイスフェスで発表。 ・CO2排出削減に向けてクールチョイス宣言をし、自分たちの生活を見直す。	①子どもeco活動交流会への参加 ②コツコツ削減コンテストの参加 ③みどりの小道環境日記への小学生の出席 ④CO2排出削減に向けたクールチョイスフェスの実施	○みどりの小道環境日記への小学生の出席 ○地方公共団体と連携したCO2排出削減促進事業の実施(香長小学校を中心に、市内全小学校で実施) ○CO2排出削減を啓発するクールチョイスフェスティバルin香美市を2月10日に実施。	3	3	 環境教育、エネルギー教育の推進 ・環境教育、エネルギー教育の香美市の教育計画の作成と実施 ・高知工科大学、山田高等学校と連携して推進 ・子どもエコクラブ活動、みどりの小道環境日記の活動促進					・香美市内の小学校をはじめ工科大学など関係教育機関が連携して、環境教育・エネルギー教育に取組み(クールチョイスフェス等)。市ぐるみでCO2・排出削減に関するクールチョイスに取り組む(クールチョイス賛同者500人以上、47団体以上)。

<視点>

夢を育み、新たな価値を創造する教育を展開します

(1) 次世代を見通した教育の環境整備と実践

行動実績の欄(平成30年度末の達成目標の到達評価)

A:すでに達成している B:予定通り30年度末に達成する C:達成の見込みなし

5:想定を大きく上回る状況 4:想定以上の状況 3:想定どおりの成果

2:改善が必要 1:見直しが必要

		平成29年度												
取組・事業名	事業の概要	年度当初の現状 (課題等)	具体的な到達目標 (有るべき姿・望ましい状況)	具体的な取り組み (計画・実施)	行動実績	到達目標の達成状況	内部 評価	外部 評価	H26	H27	H28	H29	H30	平成30年度末 達成目標
5	学校図書館システム化の推進	学校図書館システムの推進	・山田小、大宮小、楠目小は、導入済み。H29は片地小、香長小に導入作業中	・片地小、香長小にシステム完備	①片地小、香長小に整備し、ネット環境と共に準備	①片地小、香長小の導入作業完了	[達成評価] A	4	3	①	②	③	 学校図書システム化の推進 ①山田小、②大宮小、 ③その他の小中学校で整備	・すべての小学校に設置 (31年度香北中、大栃中、32年度鏡野中)
6	外国語(英語)教育の推進	外国語教育の推進 ・外国語指導助手の配置 ・外国語指導支援員の配置 ・教職員に対する研修の実施 ・外国語指導教材の整備 ・外国人とのふれあい体験活動支援	・意識調査より(H29.5)【小】「外国語を学ぶことが楽しい」小学校高学年:87.8% ・意識調査より(H28.12)【中】「英語の授業が分かる」中学2年生:44% 【中】高知県学力定着状況調査2年生県平均との差-5.4 【中】英検3級程度の力を持った中学3年生31% ・意識調査より(H29.5)【教員】「自信を持って指導している」小学校高学年教員:23.5%	・【小】外国語を学ぶのは楽しい(高学年)90% ・【中】英語の授業が分かる中学2年生50% ・【中】高知県学力定着状況調査において平均値となる。 ・【中】英検3級程度の力を持った中学3年生40% ・【教】自信を持って指導している小学校高学年教員40%	①先進校視察 ②ALTの増員、外国語指導補助員等の手配、予算や普及 ③香美市版到達度目標とカリキュラムの検証 ④教員の授業改善を目指した研修の充実 ⑤姉妹校交流(オーストラリア)	①先進校視察 ・全国英語活動研究会への参加(12月8~9日 4名) ・教育課程研究指定校事業研究協議会(2月6~7日 2名) ②ALT8名、外国語指導補助員2名の配置 ③香美市版到達度目標とカリキュラムの検証のための研修会の実施(年間3回)・・・県指定事業と兼ねる ④教員の授業改善を目指した公開授業研究会(年3回) ・大宮小学校 6月22日 ・香北中学校 10月25日 ・楠目小学校 1月25日 ⑤姉妹校交流(オーストラリア) 11月21~28日 市内小中学生10名(小6 5名、中2 2名、中3 3名) イマニュエルプライマリースクール訪問及びホームステイ	[達成評価] B	3	3	 外国語(英語)教育の推進 ・外国語指導助手の配置 ・外国語指導支援員の配置 ・教職員に対する研修の実施 ・外国語指導教材の整備	・「外国語を学ぶことが楽しい」小学校高学年90%以上 ・「英語の授業が分かる」中学2年生60%以上 ・外国語の指導を自信をもってできると回答する教員小学校80%、中学校100%以上 ・英検3級程度の力を持っている中学3年生40%			

<視点>

夢を育み、新たな価値を創造する教育を展開します
 (2) 高知工科大学との連携

行動実績の欄(平成30年度末の達成目標の到達評価)
 A:すでに達成している B:予定通り30年度末に達成する C:達成の見込みなし

5:想定を大きく上回る状況 4:想定以上の状況 3:想定どおりの成果
 2:改善が必要 1:見直しが必要

		平成29年度													
取組・事業名	事業の概要	年度当初の現状 (課題等)	具体的な到達目標 (有るべき姿・望ましい状況)	具体的な取り組み (計画・実施)	行動実績	到達目標の達成状況	内部 評価	外部 評価	H26	H27	H28	H29	H30	平成30年度末 達成目標	【新】 平成30年度末 達成目標
1	高知工科大学について知る学習の推進 オープンキャンパス事業	高知工科大学オープンキャンパス事業 ・中学生1、2年生対象実施	・市内のすべての中学1・2年生を対象にキャリアチャレンジデイを、高知工科大学で実施。(100%)	・市内のすべての中学1・2年生を対象にキャリアチャレンジデイを、高知工科大学で実施。(100%)	①キャリアチャレンジデイの継続	○中学1、2年生 ・キャリアチャレンジデイの実施・講師依頼 [達成評価] A キャリアチャレンジデイも4年目となり、すべての中学生が2回以上工科大学を利用することができている。	4	4	 オープンキャンパス実施 ・小学校5年生対象実施 ・中学校2年生対象実施					・全中学生が中学校卒業までに高知工科大学に行ったことがある。(100%)	・全中学生が中学校卒業までに高知工科大学に行ったことがある。(100%)
2	高知工科大学留学生との交流 デイキャンプ開催	デイキャンプの実施 ・小学生対象実施 ・中学生対象実施	・「英語」や「外国の文化」を身近に感じた93.4% ・交流会を年1回以上実施した学校5校	・「英語」や「外国の文化」を身近に感じた95% ・交流会を年1回以上実施した学校8校	①香美市デイキャンプの実施 ②各学校での国際交流会の実施	○香美市デイキャンプの実施 期日:8月2日 参加者:38名(小中高生) 場所:香北福祉交流センター 内容:①外国文化に親しむ活動 ②ハンカチづくり ○各高校での国際交流会の実施 [達成評価] B ・香美市デイキャンプアンケート「もっと英語を聞いたり話したりしたい」97% ・各学校での国際交流会の実施校7/10校	3	3	 インターナショナルデイ実施 ・小学校対象実施 ・中学校対象実施					・「英語」や「外国の文化」を身近に感じることができる。(肯定回答)95%以上 ・交流会を実施する学校100%	・「英語」や「外国の文化」を身近に感じることができる。(肯定回答)95%以上 ・交流会を実施する学校100%
3	高知工科大学学生企画による小中学校学習支援活動	高知工科大学 学生企画による小中学校学習支援活動	・ほとんどの学校で学習、活動支援を受けている。	・工科大生による学習、活動支援を継続する。	①放課後学習支援事業への工科大生の参加 ②香美市理科クラブの実施 ③コラボ企画への工科大生の参加	・理科クラブは、小学生13名(常時参加は4名)のメンバーと山田高校生3名、高知工科大学生3名で週1回山田高校にて実施。主に山田高校生物担当教諭からしクチャーを受けた高校生が教師役となり、大学生が教師役となり、学習を行った。 ・工科大生や山田高校生が放課後学習支援に参加している。 [達成評価] B ・児童生徒の学力が向上した。全国学力調査(全国比較 小+2.6、中-2.4) ・中学生への実施は本年度予定していない ・全国工科大生や山田高校生が積極的に教育活動に関わってくれることで、先輩の姿から将来の自分の姿について考えることができ、子どもたちのキャリア教育の場となっている ・工科大学への市内からの進学者は平成25年度の4倍になっている	3	3	 高知工科大学学生企画による小中学校学習支援活動					・児童生徒の学力が向上した ・香美市全中学校で実施(100%) ・活動そのものが児童生徒のロールモデルとなっている ・高知工科大学に進学者が増加し、その卒業生が香美市で働く、社会貢献するなどの人の流れができる	平成30年度より 事業中止
4	高知工科大学の施設や「知」を活用した連携活動の推進 教職員情報リテラシー研修の推進 例:情報教育担当教員との連携	高知工科大学生による教職員情報リテラシーに関する支援	・教職員は「興味関心を高める機器の使用ができる」(強い肯定32.7%) ・教職員はワード、エクセル、PP、メールは自由に使用できる(86.4%)	・教職員は「興味関心を高める機器の使用ができる」(強い肯定35%) ・教職員はワード、エクセル、PP、メールは自由に使用できる(88%)	①工科大生による支援と研修(市指定校による情報機器を使った授業公開への支援)	・児童生徒には、工科大学生サイカットのメンバーを招いて、小学生や教員を対象に2小学校でSNSの研修を行うことができた。 ・工科大・キャストを招き、小学校で情報教育の補助を行ってもらった。 [達成評価] B ・教職員は「興味関心を高める機器の使用ができる」(強い肯定 小44.3%、中45.1%) ・教職員はワード、エクセル、PP、メールは自由に使用できる(小88.6% 中86.3%)	3	3	 高知工科大学生による教職員情報リテラシーに関する支援					・教職員は「興味関心を高める機器の使用ができる」(強い肯定50%) ・教職員はワード、エクセル、PP、メールは自由に使用できる(90%)	・教職員は「興味関心を高める機器の使用ができる」(強い肯定50%) ・教職員はワード、エクセル、PP、メールは自由に使用できる(90%)

＜視点＞

夢を育み、新たな価値を創造する教育を展開します

(3) 生涯を通じた豊かな学びと文化・芸術、スポーツ活動の充実

行動実績の欄(平成30年度末の達成目標の到達評価)

A:すでに達成している B:予定通り30年度末に達成する C:達成の見込みなし

5:想定を大きく上回る状況 4:想定以上の状況 3:想定どおりの成果

2:改善が必要 1:見直しが必要

平成29年度										
取組・事業名	事業の概要	年度当初の現状(課題等)	具体的な到達目標(有るべき姿・望ましい状況)	具体的な取り組み(計画・実施)	行動実績	到達目標の達成状況	内部評価	外部評価	H26 H27 H28 H29 H30	平成30年度末達成目標
1	芸術・文化活動の拠点となる市内社会教育施設の活用促進	中央公民館は生涯学習の拠点として、市民の創造的な学習活動の推進を図ると共に、自発的、自主的な奉仕活動を支援することを目的とする。 ・美術館においてはアトリエや展示室の貸出により、芸術活動の育成・発表の場を提供していく。	公民館 ・人材バンクを利用した教室・講座を年間5教室の開催を目指す。(H29.4.1現在22名) ・公民館を利用した定期的な活動を行うサークルを2サークル以上発足。(年間6回以上の利用を目標) 美術館 ・各種サークルの活動場所の提供を行い、文化芸術活動の活性化を図るため、4サークル以上の活動を支援する。 ・平成29年度よりアンケート調査を行い、満足度65%を達成するワークショップを年6回以上開催する。	公民館 ①香美市市民セミナーで、人材バンクに登録している方を講師とし、物作り教室等を開催していくとともに、各地区公民館等でも人材バンク登録者を講師とした教室・講座等開催するよう連絡・協議を行っていく。 ②人材バンク登録者を利用して、新たにサークル活動として発足するものについては、公民館利用料の一部減額するなど定期的に活動が行えるよう支援を行っていく。また文化協会に加盟していただくように呼びかけを行っていく。 美術館 ①芸術サークルの活動の場としてアトリエ・展示室を提供する。また、文化展や小・中・高校生の作品展示の他、子育て支援サークルの利用においては、使用料の免除等で活用促進をはかり、幅広い層が芸術に触れる場を提供する。	○公民館 ①市民セミナーにおいて、人材バンク登録者に指導してもらいものづくり(クラフトテープを使ったかご作り、押絵羽子板作り、多肉植物の寄せ植え教室など)を実施。 ②1グループに対し公民館使用料を半額としサークル活動として行ってもらえるよう説明し人材バンク登録者に講師を依頼し教室を行った。文化協会に加盟するよう呼びかけは行った。 ○美術館 【芸術サークル、展覧会へのアトリエ・展示室貸出】 ・すみちゃんの絵手紙教室 ・パステル・水彩画教室 ・日本画教室 ・絵画教室のいら展 【ワークショップ】 【中・高校生作品展示】 ・高知県立山田高等学校第27回芸術三科合同発表会 平成30年1月6～14日 ・香美市児童生徒作品展(平成30年1月26～28日開催) 【ワークショップ】 ・おもちゃづくり 7月29日 ・不思議な生き物をつくらう! 7月29日 ・ボックスアートをつくらう! 7月30日 ・おとなワークショップ ・オリジナル 消しゴムハンコ作り 6月17日 ・はじめての水墨画 9月3日 ・美術展をまなぶ 9月4日 【子育て支援サークルへの協力】 ・「ろばみみ」が開催する「きっず・あーとぶるじゅくと」の作品制作指導、作品解説などへの協力(4回)	【達成評価】B ①市民セミナー等で7教室開催した。 ②サークル発足した。 ○美術館【達成評価】B 芸術活動支援等について、行動目標に掲げていた内容は実施している。貸出できる展示室、アトリエの場所が限られているので、できる限りニーズに応えるため、継続し日程調整を行い、芸術活動の育成・発表の場を提供していく。ワークショップ開催後のアンケートについては概ね満足度が高いので到達目標は達成する見込みである。(平成30年1月時点で子どもワークショップ参加者43名の内、来しなかったの回答が38名(88%)、普通との回答が5名、おとなワークショップ参加者35名の内、満点との回答が23名、普通との回答が2名)	○公民館 3 ○美術館 3	3	H26 H27 H28 H29 H30 公民館 美術館 香美市立美術館による展示室・アトリエ会場提供による芸術活動支援	公民館 ①市民セミナー等で人材バンクを利用した教室を7教室以上開催する。 ②現在、中央公民館を定期的に利用しているサークル数が49団体である。2サークル以上発足させ、51サークル以上にする。 美術館 ・乳幼児から高齢者までの幅広い世代で5サークル以上が文化芸術活動を行う。 ・夏休み期間を利用した講座活動や企画展開催中に作家を講師とした講座の提供を行い、引き続き年6回以上のワークショップを提供し開催後のアンケートで85%以上の満足度を達成する。
2	民俗芸能や伝統行事を後世に残す取組の推進(生涯)	○無形民俗文化財を保存し、継承する団体への補助 ○芸術祭(文化展)オープニングセレモニーを依頼するなど、公開を促進	・市指定無形民俗文化財で、10年以上公開が行われていないものがある。	①民俗文化財の伝承者と協議し、保存会の設立に向けて人材を集める。	・平成29年度芸術文化振興基金の助成をうけて、物品を購入した。 ・保存会を設立し、月2回の伝承教室開催を決め、実施した。 ・物部地区での催事で、年3回公開をした。	【達成評価】B ・新たな保存会を平成29年1月に設立した。 ・人材については、香美市外在住の方も多く、充分な人材は集まっていない状況だが、今後は市内で活動し、徐々に広報を充実させ確保に努める	3	3	H26 H27 H28 H29 H30 保存会設立 公開と活用	・公開と活用は定例日に実施する以外にも実施 ・新たに1団体を発足させ、無形文化財の保存と継承を行う
3	生涯スポーツの推進	・各種大会やスポーツイベントを開催する事により、スポーツに興味を持ってもらえる場の提供数の増加を図る。 ・改修・改築後の施設利用促進を図り、利用者数を増やす。	・エリアネットワーク事業は昨年を本来的総目での開催でなかったため、今年度は内容を直し回数数は減るものの規模はリア単位となるので、イベントの合計数を37回を実現する。 ・改修・改築完成した施設の利用率を増やす。28年度は宝町テニスコート改修工事のため利用していない。	①香美市体育大会や軽スポーツ大会等各種大会を開催する。ファミリースポーツフェスティバルや体力テストを行うとともにエリアネットワーク事業や県民スポーツフェスティバルへの参加のPRをする。 ②改修の終わった土佐山田テニスコート等の利用率を増やすための調整を図る。	香美市体育大会:8種目・377名 香美市軽スポーツ大会:3種目・149名 市主催大会等:5大会・1003名 県主催大会 県民スポーツフェスティバル:16競技・164名 市町村別抗戦伝説走:27チーム・27名 体力テスト:16名 ファミリースポーツフェスティバル:雨天中止 エリアネットワーク事業:5回・119名	【達成評価】B 香美市体育大会や軽スポーツ大会、市主催大会、県主催大会等は、台風等の影響で中止や参加チームの減少が目撃があったが、多少の増減はあるが総合的には昨年並みの参加者が得られた。 体力テストは声掛けやPR等の効果によって、過去最高となる参加者が得られたが、ファミリースポーツフェスティバルは残念ながら雨天中止となった。 エリアネットワーク事業が本来の趣旨で開催したことの影響もあり、事業数が大幅に減少した。この影響により、参加者が大幅に減少した。28年度は宝町テニスコート改修工事のため利用していない。	3	4	H26 H27 H28 H29 H30 広報やホームページによる各事業のPR 利用団体と調整を取りながら、スポーツ施設の環境整備をする	・各種大会やファミリースポーツフェスティバル、体力テスト、エリアネットワーク事業等スポーツ活動参加の機会を25年度の33回から40回とする ・改修・改築後の施設の利用促進により利用者を3施設25年度の約18,400人から22,000人とする

<視点>

夢を育み、新たな価値を創造する教育を展開します

(3) 生涯を通じた豊かな学びと文化・芸術、スポーツ活動の充実

行動実績の欄(平成30年度末の達成目標の到達評価)

A:すでに達成している B:予定通り30年度末に達成する C:達成の見込みなし

5:想定を大きく上回る状況 4:想定以上の状況 3:想定どおりの成果

2:改善が必要 1:見直しが必要

平成29年度											
取組・事業名	事業の概要	年度当初の現状 (課題等)	具体的な到達目標 (有るべき姿・望ましい状況)	具体的な取り組み (計画・実施)	行動実績	到達目標の達成状況	内部 評価	外部 評価	H26 H27 H28 H29 H30	平成30年度末 達成目標	
4	公民館活動の活性化	・成人教育においては市民大学、市民セミナー、パソコン教室を実施し、青少年教育においてはこども教室の事業を実施している。	・市民大学や市民セミナー、パソコン教室等の講座・教室および、子ども教室を継続して開催する。	・市民大学(1000人) ・市民セミナー(500人) ・成人パソコン教室(250人) ・成人英会話教室(150人) ・こども教室(1300人)	①成人教育 市民大学(講演)を4講座 市民セミナー(講座・教室)を10講座 パソコン教室を2講座(各8回) 英会話教室を3講座(各8回)を実施する予定。 ②青少年教育 子ども英会話教室、パソコン教室、料理教室、ものづくり教室等全16教室を開催予定	・市民大学(文化講座、健康講座、環境講座、人権講座) ・市民セミナー(合掌鑑賞、ものづくり教室、市民セミナー祭り、道の道ウオーキング、フラワーアレンジメント教室) ・パソコン教室(初級ワード教室、初級エクセル教室) ・英会話教室(初めての英会話) ・こども教室(子ども将棋、こども公民館、こどもこーす、英語教室(低・中・高学年、物部、香北教室)子どもパソコン教室、料理教室、スポーツ教室、野外活動、書初め大会、折り紙教室、バルーンアート教室) ・地区公民館長主事会の開催	[達成評価] B ・市民大学(3講座:延べ725名) ・市民セミナー(8講座:延べ339名) ・パソコン教室(2講座:延べ165名) ・英会話教室(2講座:延べ130名) ・こども教室(開催回数141回:延べ1,571名) ・館長主事会(12地区公民館:3回)	3	3		・市民大学(1000人) ・市民セミナー(500人) ・成人パソコン教室(250人) ・成人英会話教室(150人) ・こども教室(1300人) 安定した参加者数を上記とする
5	図書館活動の充実	①図書資料の収集 ②イベントの開催 ③学校や読書ボランティアとの連携	・平成28年度の年間1人あたりの貸出冊数は2.92冊である。 ・平成28年度の子ども司書資格取得者は23名(6%)で、20名弱の年もある。	①中高生向けの広報紙を作成、イベントを開催する ②学校や児童クラブに出前講座を実施し、図書館の広報活動に努める ③乳幼児絵本や子育て支援図書、教科関連図書を購入する ④ボランティアと協働した図書館作りをする(おはなし会、図書館まつりなど) ⑤学校、図書支援員との連携を密にし、子ども司書養成講座を推奨し、受講者を確保する	小学校への出前講座の開催(7校)及び図書館利用案内の配布(7校、保育園等11園) ・総合的な学習や生活科学習で来館(小学校6校) ・乳幼児、紙芝居、アンパンマン図書の充実 ・ボランティアと協働した図書館作り(図書館まつり、お正月リース作り、お話し会等8回実施。計243人参加) ・学校・図書支援員との連携を密にし、「子ども司書」受講者を確保。 ・図書支援員との会5回 ・子ども司書受講者は、5、6年児童376名の5%19名に対し23名が受講。	[達成評価] B ・年間1人あたりの貸出冊数3.10冊(81,710冊÷26,379人) ・子ども司書養成講座の受講者率は6%(23人÷376名)	3	3		・年間1人あたりの貸し出し冊数4冊以上。 ・新たな子ども司書資格者を児童数の5%以上にする。(小学5,6年)	